

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-109792

(P2017-109792A)

(43) 公開日 平成29年6月22日(2017.6.22)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 5/22 (2006.01)	B 6 5 D 5/22	B 3 E 0 6 0
B 6 5 D 5/24 (2006.01)	B 6 5 D 5/24	B
	B 6 5 D 5/22	E

審査請求 有 請求項の数 11 O L (全 36 頁)

(21) 出願番号	特願2015-248087 (P2015-248087)	(71) 出願人	000129493
(22) 出願日	平成27年12月20日 (2015.12.20)		株式会社クラウン・パッケージ
			愛知県小牧市小針三丁目67番地
		(74) 代理人	100093931
			弁理士 長屋 直樹
		(72) 発明者	工藤 陽介
			愛知県小牧市小針三丁目67番地 株式会
			社クラウン・パッケージ内
		Fターム(参考)	3E060 AB13 AB18 AB20 BB01 BB05
			BC02 DA30

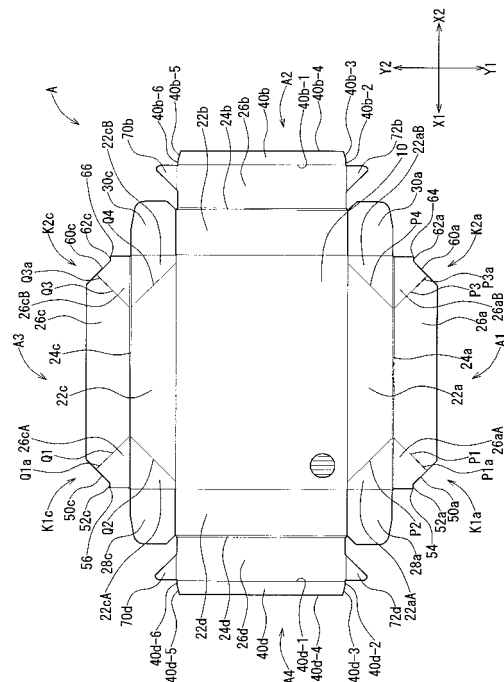
(54) 【発明の名称】 箱

(57) 【要約】

【課題】 底板部又は天板部となる基板部の相対する辺部から連設された外側板部と内側板部を接着したタイプのC式組立て式箱において、組立て状態からの解体を容易とするものを提供する。

【解決手段】 内側板部26aには、辺部50a、60a、52a、62aが設けられていて、突状部54、64が設けられ、内側板部26cには、辺部50c、60c、52c、62cが設けられていて、突状部56、66が設けられ、また、内側板部26a、26cには、罫線P1、P3、Q1、Q3が設けられ、外側板部22a、22cには、罫線P2、P4、Q2、Q4が設けられている。箱の組立て状態において、辺部50a、60a、50c、60cに係止片72d、72b、70d、70bの辺部が係止し、係止片の一部は、突状部に重なった状態となる。

【選択図】 図4



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

シート状のブランクにより形成された箱であって、

互いに平行な相対する 2 辺と、該 2 辺と直角をなす互いに平行な他の相対する 2 辺とを有する基板部 (10) と、

基板部の相対する 2 辺から折れ線を介して連設された第 1 構成部であって、基板部から折れ線を介して連設された第 1 外側板部 (22a、22c) と、第 1 外側板部に対して折返した状態で第 1 外側板部の内側の面に接着された第 1 内側板部 (26a、26c) と、第 1 外側板部の両側に折れ線を介して連設された延設フラップ (28a、30a、28c、30c) とを有する第 1 構成部 (A1、A3) と、

10

基板部の他の相対する 2 辺から折れ線を介して連設された第 2 構成部であって、基板部から折れ線を介して連設された第 2 外側板部 (22b、22d) と、第 2 内側板部 (26b、26d) と、第 2 内側板部の両側に折れ線を介して連設された係止片 (70b、72b、70d、72d) とを有する第 2 構成部 (A2、A4) と、
を有し、

第 1 内側板部の基板部側の両側の角部には、それぞれ第 1 辺部 (50a、60a、50c、60c) と、第 1 辺部から連設された第 2 辺部 (52a、62a、52c、62c) が設けられ、第 1 辺部は、第 1 内側板部の横方向の一方の端部において該第 1 辺部に近い側の端部である近位置端部側に行くほど第 1 内側板部の基板部側とは反対側の辺部である上辺との距離が短くなるように第 1 内側板部の上辺の方向に対して傾斜して形成され、第 2 辺部は、第 1 辺部の上端から第 1 内側板部における近位置端部側の側辺まで形成され、該第 2 辺部と第 1 内側板部の側辺の一部により第 1 辺部の延長線から突出した突状部 (54、64、64、66) が形成され、

20

係止片は、第 2 内側板部の先端側にいくに従い、第 2 内側板部との距離が長くなる傾斜辺部 (70b-2、72b-2、70d-2、72d-2) を有し、

第 1 内側板部には、一方の第 1 辺部における一方の第 1 辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第 1 途中位置 (P1-1、Q1-1) と第 1 内側板部の上辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第 2 途中位置 (P1-2、Q1-2) との間の位置に該第 1 途中位置と第 2 途中位置を結ぶ方向に第 1 罫線 (P1、Q1) が形成され、第 1 罫線は、第 1 途中位置側から第 2 途中位置側に向けて、一方の第 1 辺部における他方の第 1 辺部側に斜め上方の方向となるように形成され、該他方の第 1 辺部における一方の端部から他方の端部までの途中位置である第 3 途中位置 (P3-1、Q3-1) と第 1 内側板部の上辺の該他方の端部から該一方の端部までの途中位置である第 4 途中位置 (P3-2、Q3-2) との間の位置に該第 3 途中位置と第 4 途中位置を結ぶ方向に第 2 罫線 (P3、Q3) が形成され、第 2 罫線は、第 3 途中位置側から第 4 途中位置側に向けて、該一方の第 1 辺部側に斜め上方の方向となるように形成され、

30

第 1 外側板部には、第 1 罫線に沿って第 3 罫線 (P2、Q2) が形成されるとともに、第 2 罫線に沿って第 4 罫線 (P4、Q4) が形成され、

箱の組立て状態においては、延設フラップが第 2 外側板部と第 2 内側板部に挟まれた状態であり、係止片が、係止片の傾斜辺部が第 1 内側板部の第 1 辺部に沿って第 1 辺部に接触した状態で、第 1 辺部に係止するとともに、係止片の領域の一部が該突状部に重なった状態であり、

40

組立て状態の箱を解体する際には、一方の第 1 構成部を外側に押し広げて、第 1 罫線及び第 3 罫線を介して第 1 構成部を湾曲させることにより、該一方の第 1 辺部に係止した係止片である第 1 係止片が、該第 1 係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第 1 係止片の該一方の第 1 辺部への係止が解除され、

一方の第 1 構成部を外側に押し広げて、第 2 罫線及び第 4 罫線を介して第 1 構成部を湾曲させることにより、該他方の第 1 辺部に係止した係止片である第 2 係止片が、該第 2 係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第 2 係止片の該他方の第 1 辺部への係止が解除されることを特徴とする箱。

50

【請求項 2】

箱の組立て状態において、第 1 内側板部における一方の第 1 辺部における第 1 途中位置は、該一方の第 1 辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接し、第 1 内側板部における他方の第 1 辺部における第 3 途中位置は、該他方の第 1 辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接することを特徴とすることを特徴とする請求項 1 に記載の箱。

【請求項 3】

第 2 辺部が、第 1 内側板部の上辺と平行に形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の箱。

【請求項 4】

第 2 構成部が、第 2 外側板部と第 2 内側板部間に帯状の縁板部を有することを特徴とする請求項 1 又は 2 又は 3 に記載の箱。

10

【請求項 5】

第 1 辺部が直線状に形成され、傾斜辺部が、係止片の第 2 内側板部側の基端から直線状に形成され、傾斜辺部の先端から連設された略円弧状の先端辺部（70b-3、72b-3、70d-3、72d-3）と、先端辺部の傾斜辺部側とは反対側の端部から第 2 内側板部における傾斜辺部の第 2 内側板部側の基端よりも下方の位置に向けて形成された下側辺部（70b-4、72b-4、70d-4、72d-4）とを有し、係止片の先端が該先端辺部により略円弧状に形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 又は 3 又は 4 に記載の箱。

【請求項 6】

20

シート状のブランクにより形成された箱であって、

互いに平行な相対する 2 辺と、該 2 辺と直角をなす互いに平行な他の相対する 2 辺とを有する基板部（10）と、

基板部の相対する 2 辺から折れ線を介して連設された第 1 構成部であって、基板部から折れ線を介して連設された第 1 外側板部（22a、22c）と、第 1 外側板部に対して折返した状態で第 1 外側板部の内側の面に接着された第 1 内側板部（26a、26c）と、第 1 外側板部の両側に折れ線を介して連設された延設フラップ（28a、30a、28c、30c）とを有する第 1 構成部（A1、A3）と、

基板部の他の相対する 2 辺から折れ線を介して連設された第 2 構成部であって、基板部から折れ線を介して連設された第 2 外側板部（22b、22d）と、第 2 外側板部の天板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された帯状の縁板部（24b、24d）と、縁板部の第 2 外側板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された第 2 内側板部（26b、26d）と、第 2 内側板部の両側に折れ線を介して連設された係止片（70b、72b、70d、72d）とを有する第 2 構成部（A2、A4）と、を有し、

30

第 1 内側板部の基板部側の両側の角部には、それぞれ第 1 辺部（50a、60a、50c、60c）と、第 1 辺部から連設された第 2 辺部（52a、62a、52c、62c）が設けられ、第 1 辺部は、第 1 内側板部の横方向の一对の端部において該第 1 辺部に近い側の端部である近位置端部側に行くほど第 1 内側板部の基板部側とは反対側の辺部である上辺との距離が短くなるように第 1 内側板部の上辺の方向に対して傾斜して直線状に形成され、第 2 辺部は、第 1 辺部の上端から第 1 内側板部における近位置端部側の側辺まで第 1 内側板部の上辺と平行に形成され、該第 2 辺部と第 1 内側板部の側辺の一部により第 1 辺部の延長線から突出した突状部（54、64、64、66）が形成され、

40

係止片は、係止片の第 2 内側板部側の基端から直線状に形成され、第 2 内側板部の先端側にいくに従い、第 2 内側板部との距離が長くなる傾斜辺部（70b-2、72b-2、70d-2、72d-2）と、傾斜辺部の先端から連設された略円弧状の先端辺部（70b-3、72b-3、70d-3、72d-3）と、先端辺部の傾斜辺部側とは反対側の端部から第 2 内側板部における傾斜辺部の第 2 内側板部側の基端よりも下方の位置に向けて形成された下側辺部（70b-4、72b-4、70d-4、72d-4）とを有し、係止片の先端が該先端辺部により略円弧状に形成され、

50

第1内側板部には、一对の第1辺部における一方の第1辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第1途中位置（P1-1、Q1-1）と第1内側板部の上辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第2途中位置（P1-2、Q1-2）との間の位置に該第1途中位置と第2途中位置を結ぶ方向に第1罫線（P1、Q1）が形成され、第1罫線は、第1途中位置側から第2途中位置側に向けて、一对の第1辺部における他方の第1辺部側に斜め上方の方向となるように形成され、該他方の第1辺部における一方の端部から他方の端部までの第3途中位置（P3-1、Q3-1）と第1内側板部の上辺における該上辺の該他方の端部から該一方の端部までの途中位置である第4途中位置（P3-2、Q3-2）との間の位置に該第3途中位置と第4途中位置を結ぶ方向に第2罫線（P3、Q3）が形成され、第2罫線は、第3途中位置側から第4途中位置側に向けて、該一方の第1辺部側に斜め上方の方向となるように形成され、

10

第1外側板部には、第1罫線に沿って第3罫線（P2、Q2）が形成されるとともに、第2罫線に沿って第4罫線（P4、Q4）が形成され、

箱の組立て状態においては、延設フラップが第2外側板部と第2内側板部に挟まれた状態であり、係止片が、係止片の傾斜辺部が第1内側板部の第1辺部に沿って第1辺部に接触した状態で、第1辺部に係止するとともに、係止片の上端領域が該突状部に重なった状態であり、第1内側板部における一方の第1辺部における第1途中位置は、該一方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接し、第1内側板部における他方の第1辺部における第3途中位置は、該他方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接し、

組立て状態の箱を解体する際には、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第1罫線及び第3罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該一方の第1辺部に係止した係止片である第1係止片が、該第1係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第1係止片の該一方の第1辺部への係止が解除され、

20

一对の第1構成部を外側に押し広げて、第2罫線及び第4罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該他方の第1辺部に係止した係止片である第2係止片が、該第2係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第2係止片の該他方の第1辺部への係止が解除されることを特徴とする箱。

【請求項7】

第1辺部が、第1内側板部の下辺に対して略135度の角度をなし、第1罫線と第2罫線は、第1内側板部の上辺に対して略45度の角度をなすことを特徴とする請求項5又は6に記載の箱。

30

【請求項8】

第1構成部が、第1外側板部と第1内側板部間に帯状の縁板部を有し、第1内側板部が縁板部を介して第1外側板部に対して折り返した状態となっていることを特徴とする請求項1又は2又は3又は4又は5又は6又は7に記載の箱。

【請求項9】

延設フラップが、第2外側板部とは分離したフラップであることを特徴とする請求項1又は2又は3又は4又は5又は6又は7又は8に記載の箱。

【請求項10】

延設フラップが、第2外側板部と折れ線を介して連設され、箱の組立て状態において、延設フラップが二つ折りにした状態で第2外側板部と第2内側板部とで挟まれた状態となることを特徴とする請求項1又は2又は3又は4又は5又は6又は7又は8又は9に記載の箱。

40

【請求項11】

第2内側板部の箱の組立て状態において基板部側となる辺部である下辺から折れ線を介して連設された重合フラップ（40b、40d）が設けられ、重合フラップにおいて、先端側の両側の角部が面取りされていることを特徴とする請求項1又は2又は3又は4又は5又は6又は7又は8又は9又は10に記載の箱。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

50

【0001】

本発明は、箱に関するものであり、特に、C式組立て式の包装箱に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来より、箱においてC式組立て式と呼ばれるものが存在する。このC式パッケージの中でも、底板部又は天板部となる基板部の相対する辺部から連設された外側板部と内側板部を接着したものとしては、特許文献1に記載の組立式紙箱が存在する。

【0003】

すなわち、特許文献1に記載の組立式紙箱においては、例えば、箱本体aは、底板となる矩形基板7の四側辺に外側板8、8'、10、10'と内側板9、9'、11、11'が連結され、外側板8、8'、10、10'には、コーナースリット13、13'、13''、13'''が連設され、長辺側の内側板9、9'の両端は内方傾斜の斜辺に形成されるとともに、短辺側の内側板11、11'の両端には、組立時において内側板9、9'側の斜辺と突き合わせ状となる斜辺を有する三角形形状の係止片14、14'、14''、14'''が連設されていて、長手方向の内側板9、9'と外側板8、8'とは重合貼着されている。

【0004】

そして、組立てに際しては、重合貼着された内側板9、9'及び外側板8、8'を上方に折り立てるとともに、外側板10、10'を上方に折り立て、コーナースリットを折返し状として、外側板10、10'の内側面に沿わせ、その後、内側板11、11'を内方に折込み、折曲止片12、12'を基板7に沿わせるとともに、係止片14、14'、14''、14'''の斜辺を内側板9、9'の両端斜辺に突き合わせ状態とする。

【0005】

また、特許文献1の組立式紙箱の蓋体bも箱本体aと同様の構成となっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】実公昭56-38994号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

しかし、特許文献1の組立式紙箱を組み立てた状態では、係止片14、14'、14''、14'''の斜辺を内側板9、9'の両端斜辺に突き合わせ状態としているので、組立て状態から解体するのが困難であるという問題があった。

【0008】

そこで、本発明は、底板部又は天板部となる基板部の相対する辺部から連設された外側板部と内側板部を接着したタイプのC式組立て式箱において、組立て状態からの解体を容易とするものを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

本発明は上記問題点を解決するために創作されたものであって、第1には、シート状のブランクにより形成された箱であって、互いに平行な相対する2辺と、該2辺と直角をなす互いに平行な他の相対する2辺とを有する基板部(10)と、基板部の相対する2辺から折れ線を介して連設された第1構成部であって、基板部から折れ線を介して連設された第1外側板部(22a、22c)と、第1外側板部に対して折返した状態で第1外側板部の内側の面に接着された第1内側板部(26a、26c)と、第1外側板部の両側に折れ線を介して連設された延設フラップ(28a、30a、28c、30c)とを有する第1構成部(A1、A3)と、基板部の他の相対する2辺から折れ線を介して連設された第2構成部であって、基板部から折れ線を介して連設された第2外側板部(22b、22d)と、第2内側板部(26b、26d)と、第2内側板部の両側に折れ線を介して連設され

た係止片（70b、72b、70d、72d）とを有する第2構成部（A2、A4）と、
を有し、第1内側板部の基板部側の両側の角部には、それぞれ第1辺部（50a、60a
、50c、60c）と、第1辺部から連設された第2辺部（52a、62a、52c、6
2c）が設けられ、第1辺部は、第1内側板部の横方向の一对の端部において該第1辺部
に近い側の端部である近位置端部側に行くほど第1内側板部の基板部側とは反対側の辺部
である上辺との距離が短くなるように第1内側板部の上辺の方向に対して傾斜して形成さ
れ、第2辺部は、第1辺部の上端から第1内側板部における近位置端部側の側辺まで形成
され、該第2辺部と第1内側板部の側辺の一部により第1辺部の延長線から突出した突状
部（54、64、64、66）が形成され、係止片は、第2内側板部の先端側にいくに従
い、第2内側板部との距離が長くなる傾斜辺部（70b-2、72b-2、70d-2、
72d-2）を有し、第1内側板部には、一对の第1辺部における一方の第1辺部の一方
の端部から他方の端部までの途中位置である第1途中位置（P1-1、Q1-1）と第1
内側板部の上辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第2途中位置（P1-
2、Q1-2）との間の位置に該第1途中位置と第2途中位置を結ぶ方向に第1罫線（P
1、Q1）が形成され、第1罫線は、第1途中位置側から第2途中位置側に向けて、一对
の第1辺部における他方の第1辺部側に斜め上方の方向となるように形成され、該他方の
第1辺部における一方の端部から他方の端部までの途中位置である第3途中位置（P3-
1、Q3-1）と第1内側板部の上辺の該他方の端部から該一方の端部までの途中位置で
ある第4途中位置（P3-2、Q3-2）との間の位置に該第3途中位置と第4途中位置
を結ぶ方向に第2罫線（P3、Q3）が形成され、第2罫線は、第3途中位置側から第4
途中位置側に向けて、該一方の第1辺部側に斜め上方の方向となるように形成され、第1
外側板部には、第1罫線に沿って第3罫線（P2、Q2）が形成されるとともに、第2罫
線に沿って第4罫線（P4、Q4）が形成され、箱の組立て状態においては、延設フラッ
プが第2外側板部と第2内側板部に挟まれた状態であり、係止片が、係止片の傾斜辺部が
第1内側板部の第1辺部に沿って第1辺部に接触した状態で、第1辺部に係止するととも
に、係止片の領域の一部が該突状部に重なった状態であり、組立て状態の箱を解体する際
には、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第1罫線及び第3罫線を介して第1構成部
を湾曲させることにより、該一方の第1辺部に係止した係止片である第1係止片が、該第
1係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第1係止片の該一方の第1辺部への係止
が解除され、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第2罫線及び第4罫線を介して第1
構成部を湾曲させることにより、該他方の第1辺部に係止した係止片である第2係止片が
、該第2係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第2係止片の該他方の第1辺部へ
の係止が解除されることを特徴とする。

【0010】

第1の構成においては、第1構成部により構成される一对の側壁部を両手でつかんで外
側に押し広げるという簡単な操作により解体を行なうことができるので、解体が容易であ
る。特に、箱の組立て状態において、係止片の領域の一部が突状部に重なっていて、罫線
を介して内側板部を湾曲させることにより、突状部が係止片を押すので、係止片の解除が
容易となる。また、第1内側板部が罫線を介して湾曲することにより、第1辺部が途中位
置を介して外側に湾曲して第1途中位置や第3途中位置は外側に移動するので、係止片の
解除が容易となる。

【0011】

なお、上記第1の構成において、「第1内側板部の基板部側の両側の角部には、それぞ
れ第1辺部（50a、60a、50c、60c）と第2辺部（52a、62a、52c、
62c）が設けられ、第1辺部は、第1内側板部の横方向の一对の端部において該第1辺
部に近い側の端部である近位置端部側に行くほど第1内側板部の基板部側とは反対側の辺
部である上辺との距離が短くなるように第1内側板部の上辺の方向に対して傾斜して形成
され、第2辺部は、第1辺部の上端から第1内側板部における近位置端部側の側辺まで形
成され、該第2辺部と第1内側板部の側辺の一部により第1辺部の延長線から突出した突
状部（54、64、64、66）が形成され、」を「第1内側板部の基板部側の両側の角

部には、それぞれ、第1辺部と第2辺部が設けられ、一方の第1辺部（50a、50c）は、第1内側板部の横方向の端部側で他方の第1辺部側とは反対側の端部側である一方の端部側に行くほど第1内側板部の基板部側とは反対側の辺部である上辺との距離が短くなるように第1内側板部の上辺の方向に対して傾斜し、一方の第2辺部（52a、52c）は、一方の第1辺部の上端から第1内側板部における該一方の端部側の側辺まで形成され、他方の第1辺部（60a、60c）は、第1内側板部の横方向の端部側で該一方の第1辺部側とは反対側の端部側である他方の端部側に行くほど第1内側板部の上辺との距離が短くなるように第1内側板部の上辺の方向に対して傾斜し、他方の第2辺部（62a、62c）は、該他方の第1辺部の上端から第1内側板部における該他方の端部側の側辺まで形成され、該第2辺部と第1内側板部の側辺の一部により第1辺部の延長線から突出した突状部（54、64、64、66）が形成され、」としてもよい。

10

【0012】

また、上記第1の構成において、「箱の組立て状態においては、延設フラップが第2外側板部と第2内側板部に挟まれた状態で、係止片が、係止片の傾斜辺部が第1内側板部の第1辺部に沿って第1辺部に接触した状態で、第1辺部に係止するとともに、係止片の領域の一部が該突状部に重なった状態であり、」を「箱の組立て状態においては、延設フラップが第2外側板部と第2内側板部に挟まれた状態で、係止片が、係止片の傾斜辺部が第1内側板部の第1辺部に沿って第1辺部に接触した状態で、第1辺部に係止するとともに、係止片の領域の一部が該突状部の外側の面で、該突状部が設けられた第1内側板部に接着された第1外側板部側の面とは反対側の面である外側の面に重なった状態であり、」としてもよい。

20

【0013】

また、上記第1の構成において、「組立て状態の箱を解体する際には、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第1罫線及び第3罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該一方の第1辺部に係止した係止片である第1係止片が、該第1係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第1係止片の該一方の第1辺部への係止が解除され、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第2罫線及び第4罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該他方の第1辺部に係止した係止片である第2係止片が、該第2係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第2係止片の該他方の第1辺部への係止が解除される」を「組立て状態の箱を解体する際には、一对の第1構成部における一方の第1構成部において、第1内側板部における第1罫線が形成された領域と第1外側板部における第3罫線が形成された領域を一方の手でつかむとともに、他方の第1構成部において、第1内側板部における第1罫線が形成された領域と第1外側板部における第3罫線が形成された領域を他方の手でつかんだ後に、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第1罫線及び第3罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該一方の第1辺部に係止した係止片である第1係止片が、該第1係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第1係止片の該一方の第1辺部への係止が解除され、一对の第1構成部における一方の第1構成部において、第1内側板部における第2罫線が形成された領域と第1外側板部における第4罫線が形成された領域を一方の手でつかむとともに、他方の第1構成部において、第1内側板部における第2罫線が形成された領域と第1外側板部における第4罫線が形成された領域を他方の手でつかんだ後に、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第2罫線及び第4罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該他方の第1辺部に係止した係止片である第2係止片が、該第2係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第2係止片の該他方の第1辺部への係止が解除される」としてもよい。

30

40

【0014】

また、第2には、上記第1の構成において、箱の組立て状態において、第1内側板部における一方の第1辺部における第1途中位置は、該一方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接し、第1内側板部における他方の第1辺部における第3途中位置は、該他方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接することを特徴とすることを特徴とする。

【0015】

50

よって、第1内側板部が罫線を介して湾曲することにより、第1辺部が途中位置を介して外側に湾曲して第1途中位置や第3途中位置は外側に移動するが、第1途中位置と第3途中位置が傾斜辺部に接しているので、第1辺部において傾斜辺部に係止している部分が大きく外側に移動するので、係止片の第1辺部への係止の解除がより容易となる。

【0016】

また、第3には、上記第1又は第2の構成において、第2辺部が、第1内側板部の上辺と平行に形成されていることを特徴とする。

【0017】

また、第4には、上記第1から第3までのいずれかの構成において、第2構成部が、第2外側板部と第2内側板部間に帯状の縁板部を有することを特徴とする。

10

【0018】

また、第5には、上記第1から第4までのいずれかの構成において、第1辺部が直線状に形成され、傾斜辺部が、係止片の第2内側板部側の基端から直線状に形成され、傾斜辺部の先端から連設された略円弧状の先端辺部（70b-3、72b-3、70d-3、72d-3）と、先端辺部の傾斜辺部側とは反対側の端部から第2内側板部における傾斜辺部の第2内側板部側の基端よりも下方の位置に向けて形成された下側辺部（70b-4、72b-4、70d-4、72d-4）とを有し、係止片の先端が該先端辺部により略円弧状に形成されていることを特徴とする。

【0019】

よって、係止片の先端が略円弧状を呈するので、第1辺部との係止の解除を容易とすることができる。

20

【0020】

なお、上記第5の構成において、「先端辺部の傾斜辺部側とは反対側の端部から第2内側板部における傾斜辺部の第2内側板部側の基端よりも下方の位置に向けて形成された下側辺部（70b-4、72b-4、70d-4、72d-4）」を「先端辺部の傾斜辺部側とは反対側の端部から第2内側板部にまで形成され、第2内側板部の側辺に対して略直角に直線状に形成された下側辺部（70b-4、72b-4、70d-4、72d-4）」としてもよい。

【0021】

また、第6には、シート状のブランクにより形成された箱であって、互いに平行な相対する2辺と、該2辺と直角をなす互いに平行な他の相対する2辺とを有する基板部（10）と、基板部の相対する2辺から折れ線を介して連設された第1構成部であって、基板部から折れ線を介して連設された第1外側板部（22a、22c）と、第1外側板部に対して折返した状態で第1外側板部の内側の面に接着された第1内側板部（26a、26c）と、第1外側板部の両側に折れ線を介して連設された延設フラップ（28a、30a、28c、30c）とを有する第1構成部（A1、A3）と、基板部の他の相対する2辺から折れ線を介して連設された第2構成部であって、基板部から折れ線を介して連設された第2外側板部（22b、22d）と、第2外側板部の天板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された帯状の縁板部（24b、24d）と、縁板部の第2外側板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された第2内側板部（26b、26d）と、第2内側板部の両側に折れ線を介して連設された係止片（70b、72b、70d、72d）とを有する第2構成部（A2、A4）と、を有し、第1内側板部の基板部側の両側の角部には、それぞれ第1辺部（50a、60a、50c、60c）と、第1辺部から連設された第2辺部（52a、62a、52c、62c）が設けられ、第1辺部は、第1内側板部の横方向の一对の端部において該第1辺部に近い側の端部である近位置端部側に行くほど第1内側板部の基板部側とは反対側の辺部である上辺との距離が短くなるように第1内側板部の上辺の方向に対して傾斜して直線状に形成され、第2辺部は、第1辺部の上端から第1内側板部における近位置端部側の側辺まで第1内側板部の上辺と平行に形成され、該第2辺部と第1内側板部の側辺の一部により第1辺部の延長線から突出した突状部（54、64、64、66）が形成され、係止片は、係止片の第2内側板部側の基端から直線状に形

30

40

50

成され、第2内側板部の先端側にいくに従い、第2内側板部との距離が長くなる傾斜辺部（70b-2、72b-2、70d-2、72d-2）と、傾斜辺部の先端から連設された略円弧状の先端辺部（70b-3、72b-3、70d-3、72d-3）と、先端辺部の傾斜辺部側とは反対側の端部から第2内側板部における傾斜辺部の第2内側板部側の基端よりも下方の位置に向けて形成された下側辺部（70b-4、72b-4、70d-4、72d-4）とを有し、係止片の先端が該先端辺部により略円弧状に形成され、第1内側板部には、一对の第1辺部における一方の第1辺部の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第1途中位置（P1-1、Q1-1）と第1内側板部の上辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置である第2途中位置（P1-2、Q1-2）との間の位置に該第1途中位置と第2途中位置を結ぶ方向に第1罫線（P1、Q1）が形成され、第1罫線は、第1途中位置側から第2途中位置側に向けて、一对の第1辺部における他方の第1辺部側に斜め上方の方向となるように形成され、該他方の第1辺部における一方の端部から他方の端部までの第3途中位置（P3-1、Q3-1）と第1内側板部の上辺における該上辺の該他方の端部から該一方の端部までの途中位置である第4途中位置（P3-2、Q3-2）との間の位置に該第3途中位置と第4途中位置を結ぶ方向に第2罫線（P3、Q3）が形成され、第2罫線は、第3途中位置側から第4途中位置側に向けて、該一方の第1辺部側に斜め上方の方向となるように形成され、第1外側板部には、第1罫線に沿って第3罫線（P2、Q2）が形成されるとともに、第2罫線に沿って第4罫線（P4、Q4）が形成され、箱の組立て状態においては、延設フラップが第2外側板部と第2内側板部に挟まれた状態であり、係止片が、係止片の傾斜辺部が第1内側板部の第1辺部に沿って第1辺部に接触した状態で、第1辺部に係止するとともに、係止片の上端領域が該突状部に重なった状態であり、第1内側板部における一方の第1辺部における第1途中位置は、該一方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接し、第1内側板部における他方の第1辺部における第3途中位置は、該他方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接し、組立て状態の箱を解体する際には、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第1罫線及び第3罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該一方の第1辺部に係止した係止片である第1係止片が、該第1係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第1係止片の該一方の第1辺部への係止が解除され、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第2罫線及び第4罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該他方の第1辺部に係止した係止片である第2係止片が、該第2係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第2係止片の該他方の第1辺部への係止が解除されることを特徴とする。

【0022】

第6の構成においては、第1構成部により構成される一对の側壁部を両手でつかんで外側に押し広げるといった簡単な操作により解体を行なうことができるので、解体が容易である。特に、箱の組立て状態において、係止片の領域の一部が突状部に重なっていて、罫線を介して内側板部を湾曲させることにより、突状部が係止片を押すので、係止片の解除が容易となる。また、第1内側板部が罫線を介して湾曲することにより、第1辺部が途中位置を介して外側に湾曲して第1途中位置や第3途中位置は外側に移動するので、これによっても、係止片の第1辺部への係止が解除される。特に、第1途中位置と第3途中位置が傾斜辺部に接しているので、第1辺部において傾斜辺部に係止している部分が大きく外側に移動するので、係止片の第1辺部への係止の解除がより容易となる。また、係止片の先端が略円弧状を呈するので、第1辺部との係止の解除を容易とすることができる。

【0023】

なお、上記第6の構成において、「第1内側板部の基板部側の両側の角部には、それぞれ第1辺部（50a、60a、50c、60c）と、第1辺部から連設された第2辺部（52a、62a、52c、62c）が設けられ、第1辺部は、第1内側板部の横方向の一对の端部において該第1辺部に近い側の端部である近位置端部側に行くほど第1内側板部の基板部側とは反対側の辺部である上辺との距離が短くなるように第1内側板部の上辺の方向に対して傾斜して直線状に形成され、第2辺部は、第1辺部の上端から第1内側板部における近位置端部側の側辺まで第1内側板部の上辺と平行に形成され、該第2辺部と第

1 内側板部の側辺の一部により第1辺部の延長線から突出した突状部（54、64、64、66）が形成され、」を「第1内側板部の基板部側の両側の角部には、それぞれ、第1辺部と第2辺部が設けられ、一方の第1辺部（50a、50c）は、第1内側板部の横方向の端部側で他方の第1辺部側とは反対側の端部側である一方の端部側に行くほど第1内側板部の基板部側とは反対側の辺部である上辺との距離が短くなるように第1内側板部の上辺の方向に対して傾斜して直線状に形成され、一方の第2辺部（52a、52c）は、一方の第1辺部の上端から第1内側板部における該一方の端部側の側辺まで第1内側板部の上辺と平行に形成され、他方の第1辺部（60a、60c）は、第1内側板部の横方向の端部側で該一方の第1辺部側とは反対側の端部側である他方の端部側に行くほど第1内側板部の上辺との距離が短くなるように第1内側板部の上辺の方向に対して傾斜して直線状に形成され、他方の第2辺部（62a、62c）は、該他方の第1辺部の上端から第1内側板部における該他方の端部側の側辺まで第1内側板部の上辺と平行に形成され、該第2辺部と第1内側板部の側辺の一部により第1辺部の延長線から突出した突状部（54、64、64、66）が形成され、」としてもよい。

10

【0024】

また、上記第6の構成において、「先端辺部の傾斜辺部側とは反対側の端部から第2内側板部における傾斜辺部の第2内側板部側の基端よりも下方の位置に向けて形成された下側辺部（70b-4、72b-4、70d-4、72d-4）」を「先端辺部の傾斜辺部側とは反対側の端部から第2内側板部にまで形成され、第2内側板部の側辺に対して略直角に直線状に形成された下側辺部（70b-4、72b-4、70d-4、72d-4）」としてもよい。

20

【0025】

また、上記第6の構成において、「箱の組立て状態においては、延設フラップが第2外側板部と第2内側板部に挟まれた状態で、係止片が、係止片の傾斜辺部が第1内側板部の第1辺部に沿って第1辺部に接触した状態で、第1辺部に係止するとともに、係止片の上端領域が該突状部に重なった状態であり、第1内側板部における一方の第1辺部における第1途中位置は、該一方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接し、第1内側板部における他方の第1辺部における第3途中位置は、該他方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接し、」を「箱の組立て状態においては、延設フラップが第2外側板部と第2内側板部に挟まれた状態で、係止片が、係止片の傾斜辺部が第1内側板部の第1辺部に沿って第1辺部に接触した状態で、第1辺部に係止するとともに、係止片の上端領域が該突状部の外側の面で、該突状部が設けられた第1内側板部に接着された第1外側板部側の面とは反対側の面である外側の面に重なった状態であり、第1内側板部における一方の第1辺部における第1途中位置は、該一方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接し、第1内側板部における他方の第1辺部における第3途中位置は、該他方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接し、」としてもよい。

30

【0026】

また、上記第6の構成において、「組立て状態の箱を解体する際には、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第1罫線及び第3罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該一方の第1辺部に係止した係止片である第1係止片が、該第1係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第1係止片の該一方の第1辺部への係止が解除され、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第2罫線及び第4罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該他方の第1辺部に係止した係止片である第2係止片が、該第2係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第2係止片の該他方の第1辺部への係止が解除される」を「組立て状態の箱を解体する際には、一对の第1構成部における一方の第1構成部において、第1内側板部における第1罫線が形成された領域と第1外側板部における第3罫線が形成された領域を一方の手でつかむとともに、他方の第1構成部において、第1内側板部における第1罫線が形成された領域と第1外側板部における第3罫線が形成された領域を他方の手でつかんだ後に、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第1罫線及び第3罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該一方の第1辺部に係止した係止片であ

40

50

る第1係止片が、該第1係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第1係止片の該一方の第1辺部への係止が解除され、一对の第1構成部における一方の第1構成部において、第1内側板部における第2罫線が形成された領域と第1外側板部における第4罫線が形成された領域を一方の手でつかむとともに、他方の第1構成部において、第1内側板部における第2罫線が形成された領域と第1外側板部における第4罫線が形成された領域を他方の手でつかんだ後に、一对の第1構成部を外側に押し広げて、第2罫線及び第4罫線を介して第1構成部を湾曲させることにより、該他方の第1辺部に係止した係止片である第2係止片が、該第2係止片と重なる突状部に内側から押されて、該第2係止片の該他方の第1辺部への係止が解除される」としてもよい。

【0027】

10

また、第7には、上記第5又は第6の構成において、第1辺部が、第1内側板部の下辺に対して略135度の角度をなし、第1罫線と第2罫線は、第1内側板部の上辺に対して略45度の角度をなすことを特徴とする。

【0028】

また、第8には、上記第1から第7までのいずれかの構成において、第1構成部が、第1外側板部と第1内側板部間に帯状の縁板部を有し、第1内側板部が縁板部を介して第1外側板部に対して折り返した状態となっていることを特徴とする。

【0029】

また、第9には、上記第1から第8までのいずれかの構成において、延設フラップが、第2外側板部とは分離したフラップであることを特徴とする。

20

【0030】

また、第10には、上記第1から第10までのいずれかの構成において、延設フラップが、第2外側板部と折れ線を介して連設され、箱の組立て状態において、延設フラップが二つ折りにした状態で第2外側板部と第2内側板部とで挟まれた状態となることを特徴とする。

【0031】

また、第11には、第2内側板部の箱の組立て状態において基板部側となる辺部である下辺から折れ線を介して連設された重合フラップ(40b、40d)が設けられ、重合フラップにおいて、先端側の両側の角部が面取りされていることを特徴とする。よって、係止片の第1辺部への係止が解除して、係止片が内側に回動する際に、重合フラップが邪魔となることがない。

30

【0032】

なお、上記第1から第11までのいずれかの構成において、第1罫線と第2罫線に沿って切込みが形成されていることを特徴とするものとしてもよい。これによれば、第1内側板部の第1罫線や第2罫線を介した湾曲を容易とすることができ、係止片の係止の解除を容易とすることができる。また、第1罫線と第2罫線が箱の内側に形成されていて、外部から視認できない場合でも、切込みの位置により第1罫線及び第2罫線の位置を推測することができる。

【発明の効果】

【0033】

40

本発明に基づく箱によれば、第1構成部により構成される一对の側壁部を両手でつかんで外側に押し広げるといった簡単な操作により解体を行なうことができるので、解体が容易である。特に、箱の組立て状態において、係止片の領域の一部が突状部に重なっていて、罫線を介して内側板部を湾曲させることにより、突状部が係止片を押すので、係止片の解除が容易となる。

【0034】

また、第1内側板部における一方の第1辺部における第1途中位置が、該一方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接し、第1内側板部における他方の第1辺部における第3途中位置が、該他方の第1辺部に係止した係止片の傾斜辺部に接する場合には、第1内側板部が罫線を介して湾曲することにより、第1辺部が途中位置を介して外側に湾曲して

50

第 1 途中位置や第 3 途中板は外側に移動するので、これによっても、係止片の第 1 辺部への係止が解除される。

【図面の簡単な説明】

【0035】

【図 1】箱の斜視図である。

【図 2】図 1 の要部拡大図である。

【図 3】図 1 の W-W 線における要部断面図である。

【図 4】箱の展開図である。

【図 5】図 4 の要部拡大図である。

【図 6】図 4 の要部拡大図である。

【図 7】正面側構成部と背面側構成部において、内側板部を外側板部に接着した状態を示す平面図である。

【図 8】箱の組立て途中の状態を示す斜視図である。

【図 9】箱の解体方法を示す説明図である。

【図 10】箱の解体方法を示す説明図である。

【図 11】箱の解体方法を示す説明図である。

【図 12】係止片の係止を解除した状態を示す斜視図である。

【図 13】箱の他の例を示す展開図である。

【発明を実施するための形態】

【0036】

本発明においては、底板部又は天板部となる基板部の相対する辺部から連設された外側板部と内側板部を接着したタイプの C 式組立て式箱において、組立て状態からの解体を容易とするものを提供することを目的とする。

【0037】

本発明に基づく箱 A は、図 1 に示すように構成され、基板部 10 と、側壁部 20 a と、側壁部 20 b と、側壁部 20 c と、側壁部 20 d とを有している。このように、基板部 10 と、側壁部 20 a ～ 20 d によって、箱 A は上部が開口した箱状に形成され、内部に収納空間を有した構成となっている。なお、箱 A は、身蓋式の箱に適用した場合に、身にも蓋にも適用できるものである。

【0038】

この箱 A の詳細について、展開状態を示す図 4 ～ 図 6 を主として利用して説明する。箱 A は、図 4 ～ 図 6 に示す展開状態の 1 枚のシート状のブランク（具体的には、段ボール製（例えば、薄型段ボール製）のブランクであり、厚紙製のブランク等の他の紙製のブランクでもよい）を組み立てることにより形成されている。つまり、箱 A は、段ボール材（特に、両面段ボール材）等の紙製の箱である。段ボールにおける断面略波形形状の中芯の段の方向は、図 4 における円内に示す方向（Y1-Y2 方向）となっている。なお、図 4 における円内に示す方向には限られない。図面において、Y1-Y2 方向は、X1-X2 方向と直角な方向を示している。

【0039】

まず、基板部 10 は、方形状の板状に形成されている。つまり、基板部 10 の正面側（Y1 側）の辺部と背面側（Y2 側）の辺部は、X1-X2 方向に形成され、基板部 10 の右側面側（X2 側）の辺部と左側面側（X1 側）の辺部は、Y1-Y2 方向に形成されている。つまり、基板部 10 は、互いに平行な相対する 2 辺（正面側と辺部と背面側の辺部）と、該 2 辺と直角をなす互いに平行な他の相対する 2 辺（右側面側の辺部と左側面側の辺部）とを有している。基板部 10 は、箱 A が身蓋式の箱における身である場合には、底板部となり、箱 A が身蓋式の箱における蓋である場合には、天板部となる。

【0040】

また、基板部 10 の Y1 側（正面側）の辺部からは折れ線を介して外側板部（第 1 外側板部）22 a が連設されている。この外側板部 22 a は、長形状を呈し、横方向（X1-X2 方向）には基板部 10 と同じ幅を有している。

【0041】

この外側板部22aの両側には、延設フラップ28a、30aが折れ線を介して連設されている。すなわち、外側板部22aのX1側の辺部からは折れ線を介して延設フラップ28aが形成され、また、外側板部22aのX2側の辺部からは折れ線を介して延設フラップ30aが形成されている。この延設フラップ28a、30aはともに略四角形状を呈し、延設フラップ28aは、外側板部22aとの折れ線に沿った辺部28a-1と、辺部28a-1の端部から連設され、外側板部22aと縁板部24a間の折れ線の延長線上に形成された辺部28a-2と、辺部28a-2の端部から辺部28a-2に対して屈曲して直線状に形成された辺部28a-3と、辺部28a-3の端部から連設され、略円弧状に形成された辺部28a-4と、辺部28a-4の端部から直線状に形成され、辺部28a-1と平行に形成された辺部28a-5と、辺部28a-5の端部から連設され、辺部28a-5に対して屈曲して直線状に形成された辺部28a-6と、辺部28a-6の端部から外側板部22dの正面側の辺部に沿って直線状に形成された辺部28a-7とを有しており、長方形を辺部28a-3、28a-4、28a-6により切り欠いた形状を呈している。また、延設フラップ30aは、延設フラップ28aと対称に形成され、図4に示す箱Aの展開状態において、延設フラップ28aと左右対称に形成されている。

10

【0042】

なお、延設フラップ28aは、外側板部22dと分離した構成であり（つまり、外側板部22dとは連設されておらず、隣接箇所は切込みにより区画されている）、延設フラップ30aは、外側板部22bと分離した構成である（つまり、外側板部22bとは連設されておらず、隣接箇所は切込みにより区画されている）。また、外側板部22aの基板部10側とは反対側の辺部からは縁板部24aが折れ線を介して連設されている。この縁板部24aは、幅狭の帯状を呈し、組立て状態では、側壁部20aの上端部分を構成する。この縁板部24aの長手方向の長さは、外側板部22aの長手方向の長さと同じ（略同一としてもよい）に形成され、外側板部22a側から内側板部26a側に行くに従い若干短くなるように形成され、縁板部24aの両側の辺部は外側板部22aとの折れ線に対して鋭角に傾斜する斜辺となっている。なお、この縁板部24aは、内側板部26aを縁板部24aを介して外側板部22aに対して折り返した状態とする際に、ブランクの厚みを考慮して設けられたものであるが、内側板部26aを外側板部22aに対して折り返す構成であるので、ブランクの厚みが薄い場合には、縁板部24aの構成を省略して、外側板部22aから内側板部26aが連設された構成としてもよい。その場合には、正面側構成部A1の展開状態において、罫線P1と罫線P2とは外側板部22aと内側板部26a間の折れ線を中心に線対称に形成され、罫線P3と罫線P4とは外側板部22aと内側板部26a間の折れ線を中心に線対称に形成される。

20

30

【0043】

また、縁板部24aの外側板部22a側とは反対側の辺部からは内側板部（第1内側板部）26aが折れ線を介して連設されている。この内側板部26aは、長方形における先端の両側の角部（内側板部26aと外側板部22aとが接着された状態では、基板部10側の両側の角部）に切欠部K1a、K2aを形成した形状を呈し、縁板部24aに沿った直線状の辺部26a-1と、内側板部26aの先端側の辺部で辺部26a-1に対して平行な直線状の辺部26a-2と、辺部26a-2の左側面側の端部から辺部26a-2に対して傾斜した直線状の辺部（第1辺部）50aと、辺部50aの辺部26a-2とは反対側の端部から連設され、辺部26a-1と平行（略平行としてもよい）に形成された直線状の辺部（第2辺部）52aと、辺部52aの辺部50aとは反対側の端部から連設されるとともに辺部26a-1の左側面側の端部から連設され、辺部52a及び辺部26a-1に対して直角を呈する直線状の辺部26a-3と、辺部26a-2の右側面側の端部から辺部26a-2に対して傾斜した直線状の辺部（第1辺部）60aと、辺部60aの辺部26a-2とは反対側の端部から連設され、辺部26a-1と平行（略平行としてもよい）に形成された直線状の辺部（第2辺部）62aと、辺部62aの辺部60aとは反対側の端部から連設されるとともに辺部26a-1の右側面側の端部から連設され、辺

40

50

部 6 2 a 及び辺部 2 6 a-1 に対して直角を呈する直線状の辺部 2 6 a-4 とを有している。つまり、辺部 5 0 a と辺部 5 2 a により切欠部 K 1 a が形成され、辺部 6 0 a と辺部 6 2 a により切欠部 K 2 a が形成されている。

【0044】

辺部 5 0 a と辺部 6 0 a は、辺部 2 6 a-2 に対して 135 度（略 135 度としてもよい）をなしている。つまり、辺部 2 6 a-2 と辺部 5 0 a 間の角度 $\alpha 1$ と辺部 2 6 a-2 と辺部 6 0 a 間の角度 $\alpha 4$ は、135 度（略 135 度としてもよい）となっている。

【0045】

なお、切欠部 K 1 a が形成されることにより、内側板部 2 6 a には、辺部 5 0 a の延長線から下方（具体的には、斜め下方）に突出した突状部 5 4 が形成され、切欠部 K 2 a が形成されることにより、内側板部 2 6 a には、辺部 6 0 a の延長線から下方（具体的には、斜め下方）に突出した突状部 6 4 が形成されている。つまり、突状部 5 4 は、辺部 2 6 a-3 の一部と辺部 5 2 a と辺部 5 0 a の延長線により囲まれた領域で三角形形状（具体的には、直角三角形形状（特に、直角二等辺三角形））を呈し、突状部 6 4 は、辺部 2 6 a-4 の一部と辺部 6 2 a と辺部 6 0 a の延長線により囲まれた領域で三角形形状（具体的には、直角三角形形状（特に、直角二等辺三角形））を呈している。

【0046】

つまり、内側板部 2 6 a の基板部 1 0 側の両側の角部には、それぞれ辺部 5 0 a、6 0 a と、辺部 5 2 a、6 2 a が設けられ、辺部 5 0 a は、内側板部 2 6 a の横方向の一方の端部において辺部 5 0 a に近い側の端部である近位置端部（X 1 側の端部、辺部 2 6 a-3 側の端部）側に行くほど内側板部 2 6 a の上辺との距離が短くなるように内側板部 2 6 a の上辺の方向に対して傾斜して形成され、辺部 5 2 a は、辺部 5 0 a の上端から内側板部 2 6 a における近位置端部側の側辺まで形成され、辺部 5 2 a と内側板部 2 6 a の側辺（辺部 2 6 a-3）の一部により辺部 5 0 a の延長線から突出した突状部 5 4 が形成される。また、辺部 6 0 a は、内側板部 2 6 a の横方向の一方の端部において辺部 6 0 a に近い側の端部である近位置端部（X 2 側の端部、辺部 2 6 a-4 側の端部）側に行くほど内側板部 2 6 a の上辺との距離が短くなるように内側板部 2 6 a の上辺の方向に対して傾斜して形成され、辺部 6 2 a は、辺部 6 0 a の上端から内側板部 2 6 a における近位置端部側の側辺まで形成され、辺部 6 2 a と内側板部 2 6 a の側辺（辺部 2 6 a-4）の一部により辺部 6 0 a の延長線から突出した突状部 5 4 が形成される。

【0047】

辺部 5 0 a には、箱 A の組立て状態において、係止片 7 2 d が係止し、具体的には、係止片 7 2 d は、係止片 7 2 d の辺部 7 2 d-2 が辺部 5 0 a に沿った状態で、辺部 5 0 a に係止する。同様に、辺部 6 0 a には、箱 A の組立て状態において、係止片 7 2 b が係止し、具体的には、係止片 7 2 b は、係止片 7 2 b の辺部 7 2 b-2 が辺部 6 0 a に沿った状態で、辺部 6 0 a に係止する。

【0048】

また、内側板部 2 6 a の幅（つまり、Y 1-Y 2 方向の幅（組立て状態における高さ方向の幅））は、外側板部 2 2 a の幅（つまり、Y 1-Y 2 方向の幅（組立て状態における高さ方向の幅））と同じか又は基板部 1 0 の厚みを考慮して、外側板部 2 2 a の幅よりも若干小さく形成されている。また、内側板部 2 6 a の長手方向の長さ（つまり X 1-X 2 方向の長さ）は、外側板部 2 2 a の長手方向の長さや縁板部 2 4 a の長手方向の長さよりも若干短く形成されている。

【0049】

また、内側板部 2 6 a は、縁板部 2 4 a を介して内側に折り返した状態で、外側板部 2 2 a に接着されている。つまり、内側板部 2 6 a は外側板部 2 2 a に対して内側に折り返した状態で接着されている。内側板部 2 6 a と外側板部 2 2 a の接着領域は、例えば、辺部 5 0 a の位置（又は辺部 5 0 a の近傍位置）から辺部 6 0 a の位置（又は辺部 6 0 a の近傍位置）までとし、例えば、接着領域を方形状とした場合には、接着領域 R 1 は、図 7 に示すように、接着領域 R 1 の横方向の端部（具体的には、接着領域 R 1 の角部）が辺部

50a、60aに接するように形成するか、あるいは、接着領域R1の横方向の端部（具体的には、接着領域R1の角部）が辺部50a、60aの近くとなるように形成する。なお、係止片72dが切欠部K1aに係止し、係止片72bが切欠部K2aに係止するので、辺部50aに沿った領域と辺部60aに沿った領域には接着剤を塗布して接着するのが好ましく、一方の端部領域（辺部50aに沿った領域）から他方の領域（辺部60aに沿った領域）まで接着するのが好ましい。なお、内側板部26aの全面を接着領域としてもよい。また、接着手段としては、接着剤以外の手段（例えば、両面接着テープ）でもよいが、係止片72d、72bが内側板部26aの切欠部K1a、K2aに係止した状態で、係止片72d、72bと内側板部26aとの間に段差が生じるのを防ぐには、接着剤を用いるのが好ましい。

10

【0050】

また、内側板部26aの辺部50aから内側斜め上方に向けて（つまり、右側面側に斜め上方に向けて）直線状の罫線P1が形成されている。厳密には、辺部50aの下端から上端までの途中位置P1-1から辺部50aに対して直角（略直角としてもよい）に内側板部26aの上辺である辺部26a-1にまで形成されている。罫線P1と辺部26a-1との接点は、辺部26a-1の一方の端部から他方の端部までの途中位置P1-2である。罫線P1と内側板部26aの上辺である辺部26a-1との角度 α_2 は45度（略45度としてもよい）となっている。つまり、罫線P1は、途中位置P1-1から途中位置P1-2側に向けて、辺部60a（他方の第1辺部）側（X2側）に斜め上方の方向となるように形成されている。また、罫線P1における辺部50a側の部分には、罫線P1に沿って直線状の切込みP1aが複数（図4、図5の例では2つ）形成されている。切込みP1aは、内側板部26aの一方の面から他方の面まで貫通した切込みである。切込みP1aが設けられることにより、罫線P1を介した湾曲（折曲げとしてもよい）が容易となるようになっている。なお、罫線P1は、辺部50aの途中位置P1-1から内側板部26aの辺部26a-1の途中位置P1-2まで形成されているとしたが、罫線P1の端部は辺部50aや辺部26a-1と間隔が設けられていてもよく（辺部50aと辺部26a-1のいずれか一方のみと間隔が設けられる構成でもよい）、結果として、罫線P1は、途中位置P1-1と途中位置P1-2の間の位置に途中位置P1-1と途中位置P1-2を結ぶ方向に形成されていればよい。

20

【0051】

また、外側板部22aには、罫線P2が形成されていて、罫線P2は、箱Aの組立て状態において、内側板部26aと外側板部22a間の仮想中心面（内側板部26aと外側板部22aと平行で内側板部26aと外側板部22aと等距離の仮想中心面）を介して罫線P1と対称（面对称としてもよい）に形成されている。罫線P2は、外側板部22aの上辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置P2-2から外側板部22aの下辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置P2-1にまで形成されている。つまり、罫線P1における上端位置（途中位置P1-2の位置）と罫線P2における上端位置（途中位置P2-2の位置）とは、X1-X2方向において同じ位置に形成され、また、罫線P2の外側板部22aと縁板部24aの折れ線に対する角度 α_3 は、 α_2 と同一に形成され、45度（略45度としてもよい）に形成されている。つまり、正面側構成部A1（後述）の展開状態において、罫線P1と罫線P2とは線対称（つまり、縁板部24aの外側板部22a側の辺部及び縁板部24aの内側板部26a側の辺部と平行な中心線で、縁板部24aの外側板部22a側の辺部及び縁板部24aの内側板部26a側の辺部と等距離にある中心線を中心に線対称）に形成されている（ただし、切欠部K1aが設けられている関係で、途中位置P1-1と途中位置P1-2間の長さが途中位置P2-1と途中位置P2-2間の長さよりも短く形成されている）。また、罫線P2の外側板部22aの下辺との接点は途中位置P2-1となるので、該接点と基板部10の角部10a（正面及び左側面側の角部）とは間隔が設けられている。なお、罫線P2は、途中位置P2-2から途中位置P2-1まで形成されているとしたが、罫線P2の端部は外側板部22aの上辺や下辺と間隔が設けられていてもよく（外側板部22aの上辺と下辺のいずれか一方のみと間隔が設

30

40

50

けられる構成でもよい)、結果として、罫線 P 2 は、途中位置 P 2 - 2 と途中位置 P 2 - 1 の間の位置に途中位置 P 2 - 2 と途中位置 P 2 - 1 を結ぶ方向に形成されていればよい。

【0052】

また、内側板部 26a の辺部 60a から内側斜め上方に向けて(つまり、左側面側に斜め上方に向けて)直線状の罫線 P 3 が形成されている。罫線 P 3 は、罫線 P 1 と線対称に形成されている。厳密には、辺部 60a の下端から上端までの途中位置 P 3 - 1 から辺部 60a に対して直角(略直角としてもよい)に内側板部 26a の上辺である辺部 26a - 1 にまで形成されている。罫線 P 3 と辺部 26a - 1 との接点は、辺部 26a - 1 の一方の端部から他方の端部までの途中位置 P 3 - 2 であり、途中位置 P 3 - 2 は、途中位置 P 2 - 2 よりも右側面側にある。罫線 P 3 と内側板部 26a の上辺である辺部 26a - 1 との角度 $\alpha 5$ は 45 度(略 45 度としてもよい)となっている。つまり、罫線 P 3 は、途中位置 P 3 - 1 から途中位置 P 3 - 2 側に向けて、辺部 50a (一方の第 1 辺部)側(X1 側)に斜め上方の方向となるように形成されている。また、罫線 P 3 における辺部 60a 側の部分には、罫線 P 3 に沿って直線状の切込み P 3a が複数(図 4、図 5 の例では 2 つ)形成されている。切込み P 3a は、内側板部 26a の一方の面から他方の面まで貫通した切込みである。切込み P 3a が設けられることにより、罫線 P 3 を介した湾曲(折曲げとしてもよい)が容易となるようになっている。なお、罫線 P 3 は、辺部 60a の途中位置 P 3 - 1 から内側板部 26a の辺部 26a - 1 の途中位置 P 3 - 2 まで形成されているとしたが、罫線 P 3 の端部は辺部 60a や辺部 26a - 1 と間隔が設けられていてもよく(辺部 60a と辺部 26a - 1 のいずれか一方のみと間隔が設けられる構成でもよい)、結果として、罫線 P 3 は、途中位置 P 3 - 1 と途中位置 P 3 - 2 の間の位置に途中位置 P 3 - 1 と途中位置 P 3 - 2 を結ぶ方向に形成されていればよい。

【0053】

また、外側板部 22a には、罫線 P 4 が形成されていて、罫線 P 4 は、箱 A の組立て状態において、内側板部 26a と外側板部 22a 間の仮想中心面(内側板部 26a と外側板部 22a と平行で内側板部 26a と外側板部 22a と等距離の仮想中心面)を介して罫線 P 3 と対称(面对称としてもよい)に形成されている。罫線 P 4 は、外側板部 22a の上辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置 P 4 - 2 から外側板部 22a の下辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置 P 4 - 1 にまで形成されている。つまり、罫線 P 3 における上端位置(途中位置 P 3 - 2 の位置)と罫線 P 4 における上端位置(途中位置 P 4 - 2 の位置)とは、X1 - X2 方向において同じ位置に形成され、また、罫線 P 4 の外側板部 22a と縁板部 24a の折れ線に対する角度 $\alpha 6$ は、 $\alpha 5$ と同一に形成され、45 度(略 45 度としてもよい)に形成されている。つまり、正面側構成部 A1 (後述)の展開状態において、罫線 P 3 と罫線 P 4 とは線対称(つまり、縁板部 24a の外側板部 22a 側の辺部及び縁板部 24a の内側板部 26a 側の辺部と平行な中心線で、縁板部 24a の外側板部 22a 側の辺部及び縁板部 24a の内側板部 26a 側の辺部と等距離にある中心線を中心に線対称)に形成されている(ただし、切欠部 K2a が設けられている関係で、途中位置 P 3 - 1 と途中位置 P 3 - 2 間の長さが途中位置 P 4 - 1 と途中位置 P 4 - 2 間の長さよりも短く形成されている)。また、罫線 P 4 の外側板部 22a の下辺との接点は途中位置 P 4 - 1 となるので、該接点と基板部 10 の角部 10b (正面及び右側面側の角部)とは間隔が設けられている。なお、罫線 P 4 は、途中位置 P 4 - 2 から途中位置 P 4 - 1 まで形成されているとしたが、罫線 P 4 の端部は外側板部 22a の上辺や下辺と間隔が設けられていてもよく(外側板部 22a の上辺と下辺のいずれか一方のみと間隔が設けられる構成でもよい)、結果として、罫線 P 4 は、途中位置 P 4 - 2 と途中位置 P 4 - 1 の間の位置に途中位置 P 4 - 2 と途中位置 P 4 - 1 を結ぶ方向に形成されていればよい。

【0054】

なお、罫線 P 1、P 2、P 3、P 4 は、ブランクの内側の面(箱 A の組立て状態において内側となる面で、内側板部 26a と外側板部 22a において、互いに接触し合う面であ

り、内側板部 2 6 c と外側板部 2 2 c において、互いに接触し合う面）から押圧した押罫により形成され、押罫を形成する際の圧力を小さくすることにより外側に罫線が視認できない（又はほとんど視認できない）ようにすることができる。図 4～図 6 は、箱 A の内側となる面を示す展開図であり、罫線 P 1～P 4、Q 1～Q 4 が表れているが、外側から罫線が視認できない場合には、箱 A の外側となる面を示す展開図においては、罫線 P 1～P 4、Q 1～Q 4 は表れない。なお、箱 A の外側となる面にも罫線 P 1～P 4、Q 1～Q 4 が表れる場合には、箱 A の外側となる面を示す展開図は、図 4～図 6 と同様となる。

【0055】

なお、外側板部 2 2 a と内側板部 2 6 a とは接着されていて、罫線 P 1 と罫線 P 2 は上記のように対称に形成され、罫線 P 3 と罫線 P 4 は上記のように対称に形成されているので、罫線 P 2 は罫線 P 1 に沿って形成され、罫線 P 4 は罫線 P 3 に沿って形成されているといえる（罫線 P 2 は罫線 P 1 の形成位置に沿って形成され、罫線 P 4 は罫線 P 3 の形成位置に沿って形成されているとしてもよい。）。なお、罫線 P 2 は罫線 P 1 に沿って形成され、罫線 P 4 は罫線 P 3 に沿って形成されている点は、罫線 P 1～P 4 がブランクの内側の面から押圧した押罫により形成した場合のみならず、罫線 P 1～P 4 がブランクの外側の面から押圧した押罫により形成した場合にも当てはまる。つまり、罫線をブランクの外側の面から押圧した押罫により形成した場合には、押罫側の罫線同士の間は、ブランクの厚みを介して間隔が設けられるが、この場合も、互いの罫線が平行に形成されるので、罫線 P 2 は罫線 P 1 に沿って形成され、罫線 P 4 は罫線 P 3 に沿って形成されているといえる。なお、罫線 P 1～P 4 をブランクの内側の面から押圧した押罫とした場合には、押罫側の罫線同士が互いに対向するので、罫線 P 2 は罫線 P 1 に沿って形成され、罫線 P 4 は罫線 P 3 に沿って形成されているといえる。

【0056】

外側板部 2 2 a において、罫線 P 2 よりも延設フラップ 2 8 a 側（左側面側）の領域が端部領域 2 2 a A となり、罫線 P 4 よりも延設フラップ 3 0 a 側（右側面側）の領域が端部領域 2 2 a B となり、また、内側板部 2 6 a において、罫線 P 1 よりも左側面側（内側板部 2 6 a は外側板部 2 2 a に対して内側に折り返した状態で接着されるので、延設フラップ 2 8 a 側ともいえる）の領域が端部領域 2 6 a A となり、罫線 P 3 よりも右側面側（内側板部 2 6 a は外側板部 2 2 a に対して内側に折り返した状態で接着されるので、延設フラップ 3 0 a 側ともいえる）の領域が端部領域 2 6 a B となる。

【0057】

なお、基板部 1 0 の Y 1 側の辺部から形成された各部（すなわち、外側板部 2 2 a、縁板部 2 4 a、内側板部 2 6 a、延設フラップ 2 8 a、3 0 a は、展開状態において、線対称に形成され（すなわち、Y 1 側を正面側とした場合には、Y 1－Y 2 方向の中心線を介して左右対称に形成されている）、基板部 1 0 の Y 1 側の辺部から形成された各部により正面側構成部（第 1 構成部）A 1 が構成される。また、側壁部 2 0 a は、正面側の側壁を形成するので、側壁部 2 0 a は、正面側構成部 A 1 から延設フラップ 2 8 a、3 0 a を除いた構成と係止片 7 2 b、7 2 d により構成されるといえる。

【0058】

次に、基板部 1 0 の X 2 側（右側面側）の辺部からは折れ線を介して外側板部（第 2 外側板部）2 2 b が連設されている。この外側板部 2 2 b は、長方形状を呈し、長手方向（Y 1－Y 2 方向）には基板部 1 0 と同じ幅を有している（外側板部 2 2 b の Y 1－Y 2 方向の長さは、基板部 1 0 の Y 1－Y 2 方向の長さと同じである）。また、外側板部 2 2 b の基板部 1 0 側とは反対側の辺部からは縁板部 2 4 b が折れ線を介して連設されている。この縁板部 2 4 b は、幅狭の帯状を呈し、組立て状態では、側壁部 2 0 b の上端部分を構成する。この縁板部 2 4 b の長手方向の長さは、外側板部 2 2 b 側から内側板部 2 6 b に向けて若干小さく形成されている。また、縁板部 2 4 b の長手方向の長さは、外側板部 2 2 b 側から内側板部 2 6 b 側に行くに従い若干短くなるように形成され、縁板部 2 4 b の両側の辺部は外側板部 2 2 b との折れ線に対して鋭角に傾斜する斜辺となっている。

【0059】

なお、縁板部 2 4 b は箱 A の組立て状態において、外側板部 2 2 b と内側板部 2 6 b の間に延設フラップ 3 0 a、3 0 c を収納するための隙間を形成するために設けられたものであるが、縁板部 2 4 b を省略して外側板部 2 2 b から折れ線を介して内側板部 2 6 b が連設された構成としてもよい。なお、その場合には、縁板部 2 4 b が外側板部 2 2 b と内側板部 2 6 b の間に設けられるので、外側板部 2 2 b と内側板部 2 6 b の上端側の領域は若干湾曲することになる。

【0060】

また、縁板部 2 4 b の外側板部 2 2 b 側とは反対側の辺部からは内側板部（第 2 内側板部）2 6 b が折れ線を介して連設されている。この内側板部 2 6 b は、略方形状を呈している。この内側板部 2 6 b の幅（つまり、X 1 - X 2 方向の幅（組立て状態における高さ方向の幅））は、外側板部 2 2 b の幅（つまり、X 1 - X 2 方向の幅（組立て状態における高さ方向の幅））と同じか又は基板部 1 0 の厚みを考慮して、外側板部 2 2 b の幅よりも若干小さく形成されている。また、内側板部 2 6 b の長手方向の長さ（つまり Y 1 - Y 2 方向の長さ）は、外側板部 2 2 b の長手方向の長さよりも若干短く形成されている。

【0061】

また、内側板部 2 6 b の背面側の辺部からは折れ線を介して係止片 7 0 b が連設されている。この係止片 7 0 b は、内側板部 2 6 b との折れ線に沿った辺部 7 0 b - 1 と、辺部 7 0 b - 1 の上端（外側板部 2 2 b の側辺の上端から下端までの途中位置）から連設され、辺部 7 0 b - 1 に対して 4 5 度（略 4 5 度としてもよい）に形成された直線状の辺部（傾斜辺部）7 0 b - 2 と、辺部 7 0 b - 2 の端部から円弧状（略円弧状としてもよい）に形成された辺部（先端辺部）7 0 b - 3 と、辺部 7 0 b - 3 の端部から辺部 7 0 b - 1（内側板部 2 6 b の側辺としてもよい）に対して直角に直線状に形成された辺部（下側辺部）7 0 b - 4 とを有し、辺部 7 0 b - 2 は、上端から下端にいくほど辺部 7 0 b - 1 との距離が長くなる（つまり、内側板部 2 6 b との距離が長くなる）ように形成されている。また、辺部 7 0 b - 3 により係止片 7 0 b の先端は略円弧状に形成されている。箱 A の組立て状態では、係止片 7 0 b が内側板部 2 6 c の切欠部 K 2 c に係止し、係止片 7 0 b が切欠部 K 2 c に係止した状態では、辺部 7 0 b - 2 は、突状部 6 6 に重なった部分を除き、辺部 6 0 c に沿って辺部 6 0 c と接している。

【0062】

また、内側板部 2 6 b の正面側の辺部からは折れ線を介して係止片 7 2 b が連設されている。係止片 7 2 b は、箱 A の展開状態において、係止片 7 0 b と前後対称に形成され、係止片 7 2 b は、内側板部 2 6 b との折れ線に沿った辺部 7 2 b - 1 と、辺部 7 2 b - 1 の上端（外側板部 2 2 b の側辺の上端から下端までの途中位置）から連設され、辺部 7 2 b - 1 に対して 4 5 度（略 4 5 度としてもよい）に形成された直線状の辺部（傾斜辺部）7 2 b - 2 と、辺部 7 2 b - 2 の端部から円弧状（略円弧状としてもよい）に形成された辺部（先端辺部）7 2 b - 3 と、辺部 7 2 b - 3 の端部から辺部 7 2 b - 1（内側板部 2 6 b の側辺としてもよい）に対して直角に直線状に形成された辺部（下側辺部）7 2 b - 4 とを有し、辺部 7 2 b - 2 は、上端から下端にいくほど辺部 7 2 b - 1 との距離が長くなる（つまり、内側板部 2 6 b との距離が長くなる）ように形成されている。また、辺部 7 2 b - 3 により係止片 7 2 b の先端は略円弧状に形成されている。箱 A の組立て状態では、係止片 7 2 b が内側板部 2 6 a の切欠部 K 2 a に係止し、係止片 7 2 b が切欠部 K 2 c に係止した状態では、辺部 7 2 b - 2 は、突状部 6 4 に重なった部分を除き、辺部 6 0 a に沿って辺部 6 0 a と接している。

【0063】

なお、係止片 7 0 b において、辺部 7 0 b - 1 と辺部 7 0 b - 2 間の角度 $\alpha 2 1$ と辺部 7 2 b - 2 と辺部 7 2 b - 4 間の角度 $\alpha 2 2$ は、4 5 度（略 4 5 度としてもよい）に形成されている。すなわち、係止片 7 0 b が辺部 6 0 c に係止している状態では、辺部 7 0 b - 1 が鉛直方向となり、辺部 7 0 b - 1 と辺部 7 0 b - 4 間の角度は直角であるので、係止片 7 0 b においては、 $\text{角度 } \alpha 2 1 + \text{角度 } \alpha 2 2 + 90 \text{ 度} = 180 \text{ 度}$ となり、 $\text{角度 } \alpha 2 2 = 180 \text{ 度} - \alpha 1 4$ 、 $\text{角度 } \alpha 2 1 = 90 \text{ 度} - \alpha 2 2 = \alpha 1 4 - 90 \text{ 度} = 135 \text{ 度} - 90 \text{ 度}$

= 45度となる。

【0064】

同様に、係止片72bにおいて、辺部72b-1と辺部72b-2間の角度 $\alpha 31$ と辺部72b-2と辺部72b-4間の角度 $\alpha 32$ は、45度（略45度としてもよい）に形成されている。すなわち、係止片72bが辺部60aに係止している状態では、辺部72b-1が鉛直方向となり、辺部72b-1と辺部72b-4間の角度は直角であるので、係止片72bにおいては、 $\text{角度}\alpha 31 + \text{角度}\alpha 32 + 90\text{度} = 180\text{度}$ となり、 $\text{角度}\alpha 32 = 180\text{度} - \alpha 4$ 、 $\text{角度}\alpha 31 = 90\text{度} - \alpha 32 = \alpha 4 - 90\text{度} = 135\text{度} - 90\text{度} = 45\text{度}$ となる。

【0065】

また、内側板部26bの縁板部24bとは反対側の辺部からは重合フラップ（底フラップとしてもよい）40bが形成されている。この重合フラップ40bは、箱Aの組立て状態において、基板部10と重なり合うものであり、細長の略長形状を呈し、具体的には、長形状の先端側の両側の角部が斜めに面取りされた形状となっている。すなわち、重合フラップ40bは、内側板部26bとの折れ線に沿った辺部40b-1と、辺部40b-1の正面側の端部から連設され、辺部40b-1に対して直角の直線状を呈する辺部40b-2と、辺部40b-2から連設され辺部40b-2に対して鈍角をなす直線状の辺部40b-3と、辺部40b-3から連設され、辺部40b-3に対して鈍角をなし辺部40b-1と平行な直線状の辺部40b-4と、辺部40b-4の背面側の端部から連設されるとともに辺部40b-1の背面側の端部から連設され、辺部40b-4に対して鈍角をなす直線状の辺部40b-5と、辺部40b-5の辺部40b-4側とは反対側の端部から連設されるとともに辺部40b-1の背面側の端部から連設された直線状の辺部40b-6とを有し、重合フラップ40bは、辺部40b-3、40b-5により面取りされている。このように、重合フラップ40bの両側の端部が面取りされていることにより、係止片70b、72bの係止が解除して、係止片70b、72bが回転する際に、重合フラップ40bが邪魔になることがない。

【0066】

なお、基板部10のX2側の辺部から形成された各部（すなわち、外側板部22b、縁板部24b、内側板部26b、重合フラップ40b）は、展開状態において、線対称に形成され（すなわち、Y1側を正面側とした場合には、X1-X2方向の中心線を介して前後対称に形成されている）、基板部10のX2側の辺部から形成された各部により右側面側構成部（第1構成部）A2が構成される。また、側壁部20bは、右側面側の側壁を形成するので、側壁部20bは、右側面側構成部A2から係止片70b、72bを除いた構成と延設フラップ30a、30cとから構成されているといえる。

【0067】

次に、基板部10のY2側（背面側）の辺部からは折れ線を介して外側板部（第1外側板部）22cが連設され、また、この外側板部22cの両側には、延設フラップ28c、30cが折れ線を介して連設され、また、外側板部22cの基板部10側とは反対側の辺部からは縁板部24cが折れ線を介して連設され、また、縁板部24cの外側板部22c側とは反対側の辺部からは内側板部（第1内側板部）26cが折れ線を介して連設されているが、これらの構成は、外側板部22aと、延設フラップ28a、30aと、縁板部24aと、内側板部26aと同じ構成であるので、詳しい説明を省略する。つまり、箱Aの展開状態において、基板部10の背面側（Y2側）に設けられた各部材の構成は、基板部10の正面側（Y1側）に設けられた各部材の構成と線対称（X1-X2方向の中心線を介して線対称）に形成されている。また、延設フラップ28cは、外側板部22dと分離した構成であり（つまり、外側板部22dとは連設されておらず、隣接箇所は切込みにより区画されている）、延設フラップ30cは、外側板部22bと分離した構成である（つまり、外側板部22bとは連設されておらず、隣接箇所は切込みにより区画されている）。

【0068】

。

なお、内側板部 26c は、長方形状における先端の両側の角部（内側板部 26c と外側板部 22c とが接着された状態では、基板部 10 側の両側の角部）に切欠部 K1c、K2c を形成した形状を呈し、縁板部 24c に沿った直線状の辺部 26c-1 と、内側板部 26c の先端側の辺部で辺部 26c-1 に対して平行な直線状の辺部 26c-2 と、辺部 26c-2 の左側面側の端部から辺部 26c-2 に対して傾斜した直線状の辺部（第 1 辺部）50c と、辺部 50c の辺部 26c-2 とは反対側の端部から連設され、辺部 26c-1 と平行（略平行としてもよい）に形成された直線状の辺部（第 2 辺部）52c と、辺部 52c の辺部 50c とは反対側の端部から連設されるとともに辺部 26c-1 の左側面側の端部から連設され、辺部 52c 及び辺部 26c-1 に対して直角を呈する直線状の辺部 26c-3 と、辺部 26c-2 の右側面側の端部から辺部 26c-2 に対して傾斜した直線状の辺部（第 1 辺部）60c と、辺部 60c の辺部 26c-2 とは反対側の端部から連設され、辺部 26c-1 と平行（略平行としてもよい）に形成された直線状の辺部（第 2 辺部）62c と、辺部 62c の辺部 60c とは反対側の端部から連設されるとともに辺部 26c-1 の右側面側の端部から連設され、辺部 62c 及び辺部 26c-1 に対して直角を呈する直線状の辺部 26c-4 とを有している。つまり、辺部 50c と辺部 52c により切欠部 K1c が形成され、辺部 60c と辺部 62c により切欠部 K2c が形成されている。

10

【0069】

辺部 50c と辺部 60c は、辺部 26c-2 に対して 135 度（略 135 度としてもよい）をなしている。つまり、辺部 26c-2 と辺部 50c 間の角度 $\alpha 11$ と辺部 26c-2 と辺部 60c 間の角度 $\alpha 14$ は、135 度（略 135 度としてもよい）となっている。

20

【0070】

なお、切欠部 K1c が形成されることにより、内側板部 26c には、辺部 50c の延長線から下方（具体的には、斜め下方）に突出した突状部 56 が形成され、切欠部 K2c が形成されることにより、内側板部 26c には、辺部 60c の延長線から下方（具体的には、斜め下方）に突出した突状部 66 が形成されている。つまり、突状部 56 は、辺部 26c-3 の一部と辺部 52c と辺部 50c の延長線により囲まれた領域で三角形状（具体的には、直角三角形状（特に、直角二等辺三角形））を呈し、突状部 66 は、辺部 26c-4 の一部と辺部 62c と辺部 60c の延長線により囲まれた領域で三角形状（具体的には、直角三角形状（特に、直角二等辺三角形））を呈している。

30

【0071】

つまり、内側板部 26c の基板部 10 側の両側の角部には、それぞれ辺部 50c、60c と、辺部 52c、62c が設けられ、辺部 50c は、内側板部 26c の横方向の一方の端部において辺部 50c に近い側の端部である近位置端部（X1 側の端部、辺部 26c-3 側の端部）側に行くほど内側板部 26c の上辺との距離が短くなるように内側板部 26c の上辺の方向に対して傾斜して形成され、辺部 52c は、辺部 50c の上端から内側板部 26c における近位置端部側の側辺まで形成され、辺部 52c と内側板部 26c の側辺（辺部 26c-3）の一部により辺部 50c の延長線から突出した突状部 54 が形成される。また、辺部 60c は、内側板部 26c の横方向の一方の端部において辺部 60c に近い側の端部である近位置端部（X2 側の端部、辺部 26c-4 側の端部）側に行くほど内側板部 26c の上辺との距離が短くなるように内側板部 26c の上辺の方向に対して傾斜して形成され、辺部 62c は、辺部 60c の上端から内側板部 26c における近位置端部側の側辺まで形成され、辺部 62c と内側板部 26c の側辺（辺部 26c-4）の一部により辺部 60c の延長線から突出した突状部 54 が形成される。

40

【0072】

辺部 50c には、箱 A の組立て状態において、係止片 70d が係止し、具体的には、係止片 70d は、係止片 70d の辺部 70d-2 が辺部 50c に沿った状態で、辺部 50c に係止する。同様に、辺部 60c には、箱 A の組立て状態において、係止片 70b が係止し、具体的には、係止片 70b は、係止片 70b の辺部 70b-2 が辺部 60c に沿った状態で、辺部 60c に係止する。

50

【0073】

また、内側板部26cは、縁板部24cを介して内側に折り返した状態で、外側板部22cに接着されている。つまり、内側板部26cは外側板部22cに対して内側に折り返した状態で接着されている。内側板部26cと外側板部22cの接着領域は、例えば、辺部50cの位置（又は辺部50cの近傍位置）から辺部60cの位置（又は辺部60cの近傍位置）までとし、例えば、接着領域を方形状とした場合には、接着領域R2は、図7に示すように、接着領域R2の横方向の端部（具体的には、接着領域R2の角部）が辺部50c、60cに接するように形成するか、あるいは、接着領域R2の横方向の端部（具体的には、接着領域R2の角部）が辺部50c、60cの近くとなるように形成する。なお、係止片70dが切欠部K1cに係止し、係止片70bが切欠部K2cに係止するので、辺部50cに沿った領域と辺部60cに沿った領域には接着剤を塗布して接着するのが好ましく、一方の端部領域（辺部50cに沿った領域）から他方の領域（辺部60cに沿った領域）まで接着するのが好ましい。なお、内側板部26cの全面を接着領域としてもよい。また、接着手段としては、接着剤以外の手段（例えば、両面接着テープ）でもよいが、係止片70d、70bが内側板部26cの切欠部K1c、K2cに係止した状態で、係止片70d、70bと内側板部26cとの間に段差が生じるのを防ぐには、接着剤を用いるのが好ましい。

【0074】

また、内側板部26cの辺部50cから内側斜め上方に向けて（つまり、右側面側に斜め上方に向けて）直線状の罫線Q1が形成されている。厳密には、辺部50cの下端から上端までの途中位置Q1-1から辺部50cに対して直角（略直角としてもよい）に内側板部26cの上辺である辺部26c-1にまで形成されている。罫線Q1と辺部26c-1との接点は、辺部26c-1の一方の端部から他方の端部までの途中位置Q1-2である。罫線Q1と内側板部26cの上辺である辺部26c-1との角度 $\alpha 12$ は45度（略45度としてもよい）となっている。つまり、罫線Q1は、途中位置Q1-1から途中位置Q1-2側に向けて、辺部60c（他方の第1辺部）側（X2側）に斜め上方の方向となるように形成されている。また、罫線Q1における辺部50c側の部分には、罫線Q1に沿って直線状の切込みQ1aが複数（図4、図6の例では2つ）形成されている。切込みQ1aは、内側板部26cの一方の面から他方の面まで貫通した切込みである。切込みQ1aが設けられることにより、罫線Q1を介した湾曲（折曲げとしてもよい）が容易となるようになっている。なお、罫線Q1は、辺部50cの途中位置Q1-1から内側板部26cの辺部26c-1の途中位置Q1-2まで形成されているとしたが、罫線Q1の端部は辺部50cや辺部26c-1と間隔が設けられていてもよく（辺部50cと辺部26c-1のいずれか一方のみと間隔が設けられる構成でもよい）、結果として、罫線Q1は、途中位置Q1-1と途中位置Q1-2の間の位置に途中位置Q1-1と途中位置Q1-2を結ぶ方向に形成されていればよい。

【0075】

また、外側板部22cには、罫線Q2が形成されていて、罫線Q2は、箱Aの組立て状態において、内側板部26cと外側板部22c間の仮想中心面（内側板部26cと外側板部22cと平行で内側板部26cと外側板部22cと等距離の仮想中心面）を介して罫線Q1と対称（面对称としてもよい）に形成されている。罫線Q2は、外側板部22cの上辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置Q2-2から外側板部22cの下辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置Q2-1にまで形成されている。つまり、罫線Q1における上端位置（途中位置Q1-2の位置）と罫線Q2における上端位置（途中位置Q2-2の位置）とは、X1-X2方向において同じ位置に形成され、また、罫線Q2の外側板部22cと縁板部24cの折れ線に対する角度 $\alpha 13$ は、 $\alpha 12$ と同一に形成され、45度（略45度としてもよい）に形成されている。つまり、正面側構成部A1（後述）の展開状態において、罫線Q1と罫線Q2とは線対称（つまり、縁板部24cの外側板部22c側の辺部及び縁板部24cの内側板部26c側の辺部と平行な中心線で、縁板部24cの外側板部22c側の辺部及び縁板部24cの内側板部26a側の辺部と等距離にあ

る中心線を中心に線対称)に形成されている(ただし、切欠部K1cが設けられている関係で、途中位置Q1-1と途中位置Q1-2間の長さが途中位置Q2-1と途中位置Q2-2間の長さよりも短く形成されている)。また、罫線Q2の外側板部22cの下辺との接点は途中位置Q2-1となるので、該接点と基板部10の角部10c(背面及び左側面側の角部)とは間隔が設けられている。なお、罫線Q2は、途中位置Q2-2から途中位置Q2-1まで形成されているとしたが、罫線Q2の端部は外側板部22cの上辺や下辺と間隔が設けられていてもよく(外側板部22cの上辺と下辺のいずれか一方のみと間隔が設けられる構成でもよい)、結果として、罫線Q2は、途中位置Q2-2と途中位置Q2-1の間の位置に途中位置Q2-2と途中位置Q2-1を結ぶ方向に形成されていればよい。

10

【0076】

また、内側板部26cの辺部60cから内側斜め上方に向けて(つまり、左側面側に斜め上方に向けて)直線状の罫線Q3が形成されている。罫線Q3は、罫線Q1と線対称に形成されている。厳密には、辺部60cの下端から上端までの途中位置Q3-1から辺部60cに対して直角(略直角としてもよい)に内側板部26cの上辺である辺部26c-1にまで形成されている。罫線Q3と辺部26c-1との接点は、辺部26c-1の一方の端部から他方の端部までの途中位置Q3-2であり、途中位置Q3-2は、途中位置Q2-2よりも右側面側にある。罫線Q3と内側板部26cの上辺である辺部26c-1との角度 $\alpha 15$ は45度(略45度としてもよい)となっている。つまり、罫線Q3は、途中位置Q3-1から途中位置Q3-2側に向けて、辺部50c(一方の第1辺部)側(X1側)に斜め上方の方向となるように形成されている。また、罫線Q3における辺部60c側の部分には、罫線Q3に沿って直線状の切込みQ3aが複数(図4、図6の例では2つ)形成されている。切込みQ3aは、内側板部26cの一方の面から他方の面まで貫通した切込みである。切込みQ1aが設けられることにより、罫線Q3を介した湾曲(折曲げとしてもよい)が容易となるようになっている。なお、罫線Q3は、辺部60cの途中位置Q3-1から内側板部26cの辺部26c-1の途中位置Q3-2まで形成されているとしたが、罫線Q3の端部は辺部60cや辺部26c-1と間隔が設けられていてもよく(辺部60cと辺部26c-1のいずれか一方のみと間隔が設けられる構成でもよい)、結果として、罫線Q3は、途中位置Q3-1と途中位置Q3-2の間の位置に途中位置Q3-1と途中位置Q3-2を結ぶ方向に形成されていればよい。

20

30

【0077】

また、外側板部22cには、罫線Q4が形成されていて、罫線Q4は、箱Aの組立て状態において、内側板部26cと外側板部22c間の仮想中心面(内側板部26cと外側板部22cと平行で内側板部26cと外側板部22cと等距離の仮想中心面)を介して罫線Q3と対称(面对称としてもよい)に形成されている。罫線Q4は、外側板部22cの上辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置Q4-2から外側板部22cの下辺の一方の端部から他方の端部までの途中位置Q4-1にまで形成されている。つまり、罫線Q3における上端位置(途中位置Q3-2の位置)と罫線Q4における上端位置(途中位置Q4-2の位置)とは、X1-X2方向において同じ位置に形成され、また、罫線Q4の外側板部22cと縁板部24cの折れ線に対する角度 $\alpha 16$ は、 $\alpha 15$ と同一に形成され、45度(略45度としてもよい)に形成されている。つまり、背面側構成部A3(後述)の展開状態において、罫線Q3と罫線Q4とは線対称(つまり、縁板部24cの外側板部22c側の辺部及び縁板部24cの内側板部26c側の辺部と平行な中心線で、縁板部24cの外側板部22c側の辺部及び縁板部24cの内側板部26c側の辺部と等距離にある中心線を中心に線対称)に形成されている(ただし、切欠部K2cが設けられている関係で、途中位置Q3-1と途中位置Q3-2間の長さが途中位置Q4-1と途中位置Q4-2間の長さよりも短く形成されている)。また、罫線Q4の外側板部22cの下辺との接点は途中位置Q4-1となるので、該接点と基板部10の角部10d(背面及び右側面側の角部)とは間隔が設けられている。なお、罫線Q4は、途中位置Q4-2から途中位置Q4-1まで形成されているとしたが、罫線Q4の端部は外側板部22cの上辺や下辺

40

50

と間隔が設けられていてもよく（外側板部 2 2 c の上辺と下辺のいずれか一方のみと間隔が設けられる構成でもよい）、結果として、罫線 Q 4 は、途中位置 Q 4 - 2 と途中位置 Q 4 - 1 の間の位置に途中位置 Q 4 - 2 と途中位置 Q 4 - 1 を結ぶ方向に形成されていればよい。

【0078】

なお、罫線 Q 1、Q 2、Q 3、Q 4 は、ブランクの内側の面（箱 A の組立て状態において内側となる面）から押圧した押罫により形成され、押罫を形成する際の圧力を小さくすることにより外側に罫線が視認できない（又はほとんど視認できない）ようにすることができる。

【0079】

なお、外側板部 2 2 c と内側板部 2 6 c とは接着されていて、罫線 Q 1 と罫線 Q 2 は上記のように対称に形成され、罫線 Q 3 と罫線 Q 4 は上記のように対称に形成されているので、罫線 Q 2 は罫線 Q 1 に沿って形成され、罫線 Q 4 は罫線 Q 3 に沿って形成されているといえる（罫線 Q 2 は罫線 Q 1 の形成位置に沿って形成され、罫線 Q 4 は罫線 Q 3 の形成位置に沿って形成されているとしてもよい。）。なお、罫線 Q 2 は罫線 Q 1 に沿って形成され、罫線 Q 4 は罫線 Q 3 に沿って形成されている点は、罫線 Q 1 ~ Q 4 がブランクの内側の面から押圧した押罫により形成した場合のみならず、罫線 Q 1 ~ Q 4 がブランクの外側の面から押圧した押罫により形成した場合にも当てはまる。つまり、罫線をブランクの外側の面から押圧した押罫により形成した場合には、押罫側の罫線同士の間は、ブランクの厚みを介して間隔が設けられるが、この場合も、互いの罫線が平行に形成されるので、罫線 Q 2 は罫線 Q 1 に沿って形成され、罫線 Q 4 は罫線 Q 3 に沿って形成されているといえる。なお、罫線 Q 1 ~ Q 4 をブランクの内側の面から押圧した押罫とした場合には、押罫側の罫線同士が互いに対向するので、罫線 Q 2 は罫線 Q 1 に沿って形成され、罫線 Q 4 は罫線 Q 3 に沿って形成されているといえる。

【0080】

外側板部 2 2 c において、罫線 Q 2 よりも延設フラップ 2 8 c 側（左側面側）の領域が端部領域 2 2 c A となり、罫線 Q 4 よりも延設フラップ 3 0 c 側（右側面側）の領域が端部領域 2 2 c B となり、また、内側板部 2 6 c において、罫線 Q 1 よりも左側面側（内側板部 2 6 c は外側板部 2 2 c に対して内側に折り返した状態で接着されるので、延設フラップ 2 8 c 側ともいえる）の領域が端部領域 2 6 c A となり、罫線 Q 3 よりも右側面側（内側板部 2 6 c は外側板部 2 2 c に対して内側に折り返した状態で接着されるので、延設フラップ 3 0 c 側ともいえる）の領域が端部領域 2 6 c B となる。

【0081】

なお、基板部 1 0 の Y 2 側の辺部から形成された各部（すなわち、外側板部 2 2 c、縁板部 2 4 c、内側板部 2 6 c、延設フラップ 2 8 c、3 0 c は、展開状態において、線対称に形成され（すなわち、Y 1 側を正面側とした場合には、Y 1 - Y 2 方向の中心線を介して左右対称に形成されている）、基板部 1 0 の Y 2 側の辺部から形成された各部により背面側構成部（第 2 構成部）A 3 が構成される。また、側壁部 2 0 c は、背面側の側壁を形成するので、側壁部 2 0 c は、背面側構成部 A 3 から延設フラップ 2 8 c、3 0 c を除いた構成と係止片 7 0 b、7 0 d により構成されるといえる。

【0082】

なお、この縁板部 2 4 c は、内側板部 2 6 c を縁板部 2 4 c を介して外側板部 2 2 c に対して折り返した状態とする際に、ブランクの厚みを考慮して設けられたものであるが、内側板部 2 6 c を外側板部 2 2 c に対して折り返す構成であるので、ブランクの厚みが薄場合には、縁板部 2 4 c の構成を省略して、外側板部 2 2 c から内側板部 2 6 c が連設された構成としてもよい。その場合には、背面側構成部 A 3 の展開状態において、罫線 Q 1 と罫線 Q 2 とは外側板部 2 2 c と内側板部 2 6 c 間の折れ線を中心に線対称に形成され、罫線 Q 3 と罫線 Q 4 とは外側板部 2 2 c と内側板部 2 6 c 間の折れ線を中心に線対称に形成される。

【0083】

なお、箱 A の組立て状態においては、罫線 P 1、P 3、Q 1、Q 3（具体的には、該罫線の下端）は、係止片 7 2 d、7 2 b、7 0 d、7 0 b の傾斜した辺部 7 2 d-2、7 2 b-2、7 0 d-2、7 0 b-2 に接するようになっている。つまり、罫線 P 1（具体的には、罫線 P 1 の下端（つまり、該下端は途中位置 P 1-1 と一致する））は、係止片 7 2 d の辺部 7 2 d-2 に接し、罫線 P 3（具体的には、罫線 P 3 の下端（つまり、該下端は途中位置 P 3-1 と一致する））は、係止片 7 2 b の辺部 7 2 b-2 に接し、罫線 Q 1（具体的には、罫線 Q 1 の下端（つまり、該下端は、途中位置 Q 1-1 と一致する））は、係止片 7 0 d の辺部 7 0 d-2 に接し、罫線 Q 3（具体的には、罫線 Q 3 の下端（つまり、該下端は途中位置 Q 3-1 と一致する））は、係止片 7 0 b の辺部 7 0 b-2 に接している。つまり、途中位置 P 1-1 は辺部 7 2 d-2 に接し、途中位置 P 3-1 は辺部 7 2 b-2 に接し、途中位置 Q 1-1 は辺部 7 0 d-2 に接し、途中位置 Q 3-1 は辺部 7 2 d-2 に接している。特に、罫線 P 1、P 3、Q 1、Q 3 の下端は、係止片 7 2 d、7 2 b、7 0 d、7 0 b の傾斜した辺部 7 2 d-2、7 2 b-2、7 0 d-2、7 0 b-2 の上端と下端間の中点（上端と下端から等距離の点）よりも下端側に接している（つまり、辺部 7 2 d-2、7 2 b-2、7 0 d-2、7 0 b-2 の下側領域に接している）。

【0084】

例えば、罫線 Q 1 の場合を例にとると、図 3 に示すように、罫線 Q 1 の下端である途中位置 Q 1-1 は、係止片 7 0 d の辺部 7 0 d-2 に接し、特に、辺部 7 0 d-2 の上端と下端間の中点（上端と下端から等距離の点）C P よりも下端側に接している。

【0085】

このように、罫線が係止片の傾斜した辺部に接しているので、内側板部を罫線を介して折り曲げた際に、罫線の下端（つまり、途中位置 P 1-1、P 3-1、Q 1-1、Q 3-1）は外側に移動するので、辺部 5 0 a、6 0 a、5 0 c、6 0 c の係止片 7 2 d、7 2 b、7 0 d、7 0 b との係止を解除しやすくなり、特に、罫線が辺部の下側領域に接しているので、該辺部の下側領域を解除しやすい。例えば、内側板部 2 6 c を罫線 Q 1 を介して折り曲げた際には、罫線 Q 1 の下端は外側に移動するので、係止片 7 0 d の辺部 5 0 c への係止を解除しやすく、特に、罫線 Q 1 が辺部 7 0 d-2 の下側領域に接しているので、該辺部 7 0 d-2 の下側領域を解除しやすい。

【0086】

なお、罫線 P 1、P 3、Q 1、Q 3 の下端が辺部 5 0 a、6 0 a、5 0 c、6 0 c まで形成されていない場合（罫線 P 1、P 3、Q 1、Q 3 の下端と辺部 5 0 a、6 0 a、5 0 c、6 0 c 間に間隔がある場合）には、罫線 P 1、P 3、Q 1、Q 3 の下方への延長線（具体的には、該延長線の下端で辺部 5 0 a、6 0 a、5 0 c、6 0 c と接する下端）が、係止片 7 2 d、7 2 b、7 0 d、7 0 b の傾斜した辺部 7 2 d-2、7 2 b-2、7 0 d-2、7 0 b-2 と接するようにし、特に、該延長線が、辺部 7 2 d-2、7 2 b-2、7 0 d-2、7 0 b-2 の下側領域（辺部 7 2 d-2、7 2 b-2、7 0 d-2、7 0 b-2 の上端と下端間の中点（上端と下端から等距離の点）よりも下端側の領域）に接するようにすればよい。よって、内側板部を罫線を介して折り曲げた際に、罫線の延長線の下端は外側に移動するので、係止片との係止を解除しやすくなり、特に、罫線の延長線が辺部の下側領域に接しているので、該辺部の下側領域を解除しやすい。

【0087】

なお、罫線 P 1、P 3、Q 1、Q 3 の下端（又は該罫線の延長線の下端）となる途中位置が、係止片の傾斜辺部に接しない場合（例えば、途中位置 P 1-1、P 3-1、Q 1-1、Q 3-1 が辺部 5 0 a、6 0 a、5 0 c、6 0 c における図 4～図 6 に示す位置よりもより下側にあり、係止片 7 2 d、7 2 b、7 0 d、7 0 b の長さ（横方向の長さ）が短い（これにより、傾斜辺部である辺部 7 2 d-2、7 2 b-2、7 0 d-2、7 0 b-2 の長さが短くなる）場合には、該罫線の延長線の下端となる途中位置が、係止片の傾斜辺部に接しない場合がある）でも、内側板部を罫線を介して折り曲げた際に、罫線の下端（つまり、途中位置 P 1-1、P 3-1、Q 1-1、Q 3-1）は外側に移動し、これに伴い、辺部 5 0 a、6 0 a、5 0 c、6 0 c において、係止片の傾斜辺部が係止している部

分も外側に移動するので、辺部50a、60a、50c、60cの係止片72d、72b、70d、70bとの係止を解除できる。ただし、罫線P1、P3、Q1、Q3の下端（又は該罫線の延長線の下端）となる途中位置が、係止片の傾斜辺部に接する場合の方が、辺部50a、60a、50c、60cの傾斜辺部に係止している部分が大きく外側に移動するので、その分係止を解除しやすくなる。

【0088】

次に、基板部10のX1側（左側面側）の辺部からは折れ線を介して外側板部（第2外側板部）22dが連設され、また、外側板部22dの基板部10側とは反対側の辺部からは縁板部24dが折れ線を介して連設され、また、縁板部24dの外側板部22d側とは反対側の辺部からは内側板部（第2内側板部）26dが折れ線を介して連設され、さらには、内側板部26dの縁板部24dとは反対側の辺部からは重合フラップ（底フラップとしてもよい）40dが形成されているが、これらの構成は、外側板部22bと、縁板部24bと、内側板部26bと、重合フラップ40bと同じ構成であるので、詳しい説明を省略する。つまり、箱Aの展開状態において、基板部10の左側面側に設けられた各部材の構成は、基板部10の右側面側に設けられた各部材の構成と線対称である以外は同じである。また、箱Aの展開状態において、基板部10の左側面側に設けられた各部材の構成は、基板部10の右側面側に設けられた各部材の構成とY1-Y2方向の中心線を介して対称に構成されているといえる。

【0089】

なお、内側板部26dの背面側の辺部からは折れ線を介して係止片70dが連設されている。この係止片70dは、内側板部26dとの折れ線に沿った辺部70d-1と、辺部70d-1の上端（外側板部22dの側辺の上端から下端までの途中位置）から連設され、辺部70d-1に対して45度（略45度としてもよい）に形成された直線状の辺部（傾斜辺部）70d-2と、辺部70d-2の端部から円弧状（略円弧状としてもよい）に形成された辺部（先端辺部）70d-3と、辺部70d-3の端部から辺部70d-1（内側板部26dの側辺としてもよい）に対して直角に直線状に形成された辺部（下側辺部）70d-4とを有し、辺部70d-2は、上端から下端にいくほど辺部70d-1との距離が長くなる（つまり、内側板部26dとの距離が長くなる）ように形成されている。また、辺部70d-3により係止片70dの先端は略円弧状に形成されている。箱Aの組立て状態では、係止片70dが内側板部26dの切欠部K1cに係止し、係止片70dが切欠部K1cに係止した状態では、辺部70d-2は、突状部56に重なった部分を除き、辺部50cに沿って辺部50cと接している。

【0090】

また、内側板部26dの正面側の辺部からは折れ線を介して係止片72dが連設されている。係止片72dは、箱Aの展開状態において、係止片70dと前後対称に形成され、係止片72dは、内側板部26dとの折れ線に沿った辺部72d-1と、辺部72d-1の上端（外側板部22dの側辺の上端から下端までの途中位置）から連設され、辺部72d-1に対して45度（略45度としてもよい）に形成された直線状の辺部（傾斜辺部）72d-2と、辺部72d-2の端部から円弧状（略円弧状としてもよい）に形成された辺部（先端辺部）72d-3と、辺部72d-3の端部から辺部72d-1（内側板部26dの側辺としてもよい）に対して直角に直線状に形成された辺部（下側辺部）72d-4とを有し、辺部72d-2は、上端から下端にいくほど辺部72d-1との距離が長くなる（つまり、内側板部26dとの距離が長くなる）ように形成されている。また、辺部72d-3により係止片72dの先端は略円弧状に形成されている。箱Aの組立て状態では、係止片72dが内側板部26aの切欠部K1aに係止し、係止片72dが切欠部K1aに係止した状態では、辺部72d-2は、突状部54に重なった部分を除き、辺部50aに沿って辺部50aと接している。

【0091】

なお、係止片70dにおいて、辺部70d-1と辺部70d-2間の角度 $\alpha 41$ と辺部70d-2と辺部70d-4間の角度 $\alpha 42$ は、45度（略45度としてもよい）に形成

されている。すなわち、係止片 70 d が辺部 50 c に係止している状態では、辺部 70 d - 1 が鉛直方向となり、辺部 70 d - 1 と辺部 70 d - 4 間の角度は直角であるので、係止片 70 d においては、 $\text{角度 } \alpha 41 + \text{角度 } \alpha 42 + 90 \text{ 度} = 180 \text{ 度}$ となり、 $\text{角度 } \alpha 42 = 180 \text{ 度} - \alpha 41$ 、 $\text{角度 } \alpha 41 = 90 \text{ 度} - \alpha 42 = \alpha 41 - 90 \text{ 度} = 135 \text{ 度} - 90 \text{ 度} = 45 \text{ 度}$ となる。

【0092】

同様に、係止片 72 d において、辺部 72 d - 1 と辺部 72 d - 2 間の角度 $\alpha 51$ と辺部 72 d - 2 と辺部 72 d - 4 間の角度 $\alpha 52$ は、45 度（略 45 度としてもよい）に形成されている。すなわち、係止片 72 d が辺部 50 a に係止している状態では、辺部 72 d - 1 が鉛直方向となり、辺部 72 d - 1 と辺部 72 d - 4 間の角度は直角であるので、係止片 72 d においては、 $\text{角度 } \alpha 51 + \text{角度 } \alpha 52 + 90 \text{ 度} = 180 \text{ 度}$ となり、 $\text{角度 } \alpha 52 = 180 \text{ 度} - \alpha 51$ 、 $\text{角度 } \alpha 51 = 90 \text{ 度} - \alpha 52 = \alpha 51 - 90 \text{ 度} = 135 \text{ 度} - 90 \text{ 度} = 45 \text{ 度}$ となる。

【0093】

また、重合フラップ 40 d は、箱 A の組立て状態において、基板部 10 と重なり合うものであり、細長の略長形状を呈し、具体的には、長形状の先端側の両側の角部が斜めに面取りされた形状となっている。すなわち、重合フラップ 40 d は、内側板部 26 d との折れ線に沿った辺部 40 d - 1 と、辺部 40 d - 1 の正面側の端部から連設され、辺部 40 d - 1 に対して直角の直線状を呈する辺部 40 d - 2 と、辺部 40 d - 2 から連設され辺部 40 d - 2 に対して鈍角をなす直線状の辺部 40 d - 3 と、辺部 40 d - 3 から連設され、辺部 40 d - 3 に対して鈍角をなし辺部 40 d - 1 と平行な直線状の辺部 40 d - 4 と、辺部 40 d - 4 の背面側の端部から連設されるとともに辺部 40 d - 1 の背面側の端部から連設され、辺部 40 d - 4 に対して鈍角をなす直線状の辺部 40 d - 5 と、辺部 40 d - 5 の辺部 40 d - 4 側とは反対側の端部から連設されるとともに辺部 40 d - 1 の背面側の端部から連設された直線状の辺部 40 d - 6 とを有し、重合フラップ 40 d は、辺部 40 d - 3、40 d - 5 により面取りされている。このように、重合フラップ 40 d の両側の端部が面取りされていることにより、係止片 70 d、72 d の係止が解除して、係止片 70 d、72 d が回転する際に、重合フラップ 40 d が邪魔になることがない。

【0094】

なお、縁板部 24 d は箱 A の組立て状態において、外側板部 22 d と内側板部 26 d の間に延設フラップ 28 a、28 c を収納するための隙間を形成するために設けられたものであるが、縁板部 24 d を省略して外側板部 22 d から折れ線を介して内側板部 26 d が連設された構成としてもよい。なお、その場合には、縁板部 24 d が外側板部 22 d と内側板部 26 d の間に設けられるので、外側板部 22 d と内側板部 26 d の上端側の領域は若干湾曲することになる。

【0095】

なお、基板部 10 の X1 側の辺部から形成された各部（すなわち、外側板部 22 d、縁板部 24 d、内側板部 26 d、重合フラップ 40 d）は、展開状態において、線対称に形成され（すなわち、Y1 側を正面側とした場合には、X1 - X2 方向の中心線を介して前後対称に形成されている）、基板部 10 の X1 側の辺部から形成された各部により左側面側構成部（第 1 構成部）A4 が構成される。また、側壁部 20 d は、左側面側の側壁を形成するので、左側面側構成部 A4 から係止片 70 d、72 d を除いた構成と延設フラップ 28 a、28 c とから構成されているといえる。

【0096】

上記構成の箱 A の組立て方法について説明すると、箱 A を組み立てる前の状態は、図 7 に示すように、内側板部 26 a が外側板部 22 a に対して折り返した状態で、内側板部 26 a が外側板部 22 a に接着され、内側板部 26 c が外側板部 22 c に対して折り返した状態で、内側板部 26 c が外側板部 22 c に接着されている。

【0097】

そして、外側板部 2 2 a を基板部 1 0 に対して起立させ、また、延設フラップ 2 8 a、3 0 a を基板部 1 0 側に折り曲げておく。また、同様に、外側板部 2 2 c を基板部 1 0 に対して起立させ、また、延設フラップ 2 8 c、3 0 c を基板部 1 0 側に折り曲げておく。

【0098】

そして、外側板部 2 2 b を基板部 1 0 に対して折り曲げ、さらに、縁板部 2 4 b を外側板部 2 2 b に対して折り曲げるとともに、内側板部 2 6 b を縁板部 2 4 b に対して折り曲げることにより、縁板部 2 4 b と内側板部 2 6 b を延設フラップ 3 0 a、3 0 c に被せて、延設フラップ 3 0 a、3 0 c が外側板部 2 2 b と内側板部 2 6 b 間に挟まれた状態とする。

【0099】

その後、重合フラップ 4 0 b を基板部 1 0 に接するようにし、内側板部 2 6 b の下端を外側板部 2 2 b 側に押し込む（つまり、右側面側の奥に押し込む）ことにより、係止片 7 2 b が切欠部 K 2 a に係止し、係止部 7 0 b が切欠部 K 2 c に係止する。つまり、内側板部 2 6 b に対して折り曲げられた係止片 7 2 b は折曲げ状態から復帰しようとするが、係止片 7 2 b の辺部 7 2 b-2 が辺部 6 0 a に沿った状態になると、係止片 7 2 b が切欠部 K 2 a に係止し、内側板部 2 6 b に対して折り曲げられた係止片 7 0 b は折曲げ状態から復帰しようとするが、係止片 7 0 b の辺部 7 0 b-2 が辺部 6 0 c に沿った状態になると、係止片 7 0 b が切欠部 K 2 c に係止する。これにより、係止片 7 2 b の辺部 7 2 b-2 が辺部 6 0 a に沿って辺部 6 0 a に接した状態となり（つまり、辺部 7 2 b-2 は突状部 6 4 に重なった部分以外は、辺部 6 0 a に沿って辺部 6 0 a に接した状態となる）、係止部 7 0 b の辺部 7 0 b-2 が辺部 6 0 c に沿って辺部 6 0 c に接した状態となる（つまり、辺部 7 0 b-2 は突状部 6 6 に重なった部分以外は、辺部 6 0 c に沿って辺部 6 0 c に接した状態となる）。辺部 7 2 b-2 において、辺部 6 0 a に沿って辺部 6 0 a に接した部分は、辺部 6 0 a と重なり合う部分（重なり合い部分）と、辺部 7 2 b-2 の上側から下側に向けて徐々に辺部 6 0 a に重なり合う部分（重なり移行部分）とを有し、辺部 7 2 b-2 の突状部 6 4 に重なった部分と該重なり合い部分の間に該重なり移行部分が存在し、重なり移行部分では、辺部 6 0 a と重なり合う厚み方向の長さが上側から下側に向けて徐々に大きくなっている。同様に、辺部 7 0 b-2 において、辺部 6 0 c に沿って辺部 6 0 c に接した部分は、辺部 6 0 c と重なり合う部分（重なり合い部分）と、辺部 7 0 b-2 の上側から下側に向けて徐々に辺部 6 0 c に重なり合う部分（重なり移行部分）とを有し、辺部 7 0 b-2 の突状部 6 6 に重なった部分と該重なり合い部分の間に該重なり移行部分が存在し、重なり移行部分では、辺部 6 0 c と重なり合う厚み方向の長さが上側から下側に向けて徐々に大きくなっている。なお、辺部 7 2 b-2 における該重なり合い部分の長さは、辺部 7 2 b-2 の長さの半分以上であり、辺部 7 0 b-2 における該重なり合い部分の長さは、辺部 7 0 b-2 の長さの半分以上となっている。辺部 7 2 b-2 における該重なり合い部分では、辺部 7 2 b-2 と辺部 6 0 a とが突き合わせた状態となっていて、係止片 7 2 b と内側板部 2 6 a との間には段差は形成されず（たとえ段差があっても極めて小さい）、辺部 7 0 b-2 における該重なり合い部分では、辺部 7 0 b-2 と辺部 6 0 c とが突き合わせた状態となっていて、係止片 7 0 b と内側板部 2 6 c との間には段差は形成されない（たとえ段差があっても極めて小さい）。よって、係止片 7 2 b、7 0 b が内側に突出して邪魔になることがない。該重なり合い部分と該重なり移行部分により（特に、該重なり合い部分により）、係止片 7 2 b が辺部 6 0 a に係止し、係止片 7 0 b が辺部 6 0 c に係止する。

【0100】

また、係止片 7 2 b の上端領域は、突状部 6 4 に重なった状態（突状部 6 4 の外側の面（外側板部 2 2 a 側とは反対側の面）（突状部 6 4 が設けられた内側板部 2 6 a に接着された外側板部 2 2 a 側の面とは反対側の面である外側の面に対して重なった状態）となり、係止部 7 0 b の上端領域は、突状部 6 6 に重なった状態（突状部 6 6 の外側の面（外側板部 2 2 c 側とは反対側の面）に対して重なった状態）（突状部 6 6 が設けられた内側板部 2 6 c に接着された外側板部 2 2 c 側の面とは反対側の面である外側の面に対して重な

10

20

30

40

50

った状態)となる。図8は、右側面側構成部A2を組み立てた段階の状態を示している。

【0101】

また、同様に、外側板部22dを基板部10に対して折り曲げ、さらに、縁板部24dを外側板部22dに対して折り曲げるとともに、内側板部26dを縁板部24dに対して折り曲げることにより、縁板部24dと内側板部26dを延設フラップ28a、28cに被せて、延設フラップ28a、28cが外側板部22dと内側板部26d間に挟まれた状態とする。

【0102】

その後、重合フラップ40dを基板部10に接するようにし、内側板部26dの下端を外側板部22d側に押し込む(つまり、左側面側の奥に押し込む)ことにより、係止片72dが切欠部K1aに係止し、係止部70dが切欠部K1cに係止する。つまり、内側板部26dに対して折り曲げられた係止片72dは折曲げ状態から復帰しようとするが、係止片72dの辺部72d-2が辺部50aに沿った状態になると、係止片72dが切欠部K1aに係止し、内側板部26dに対して折り曲げられた係止片70dは折曲げ状態から復帰しようとするが、係止片70dの辺部70d-2が辺部50cに沿った状態になると、係止片70dが切欠部K1cに係止する。これにより、係止片72dの辺部72d-2が辺部50aに沿って辺部50aに接した状態となり(つまり、辺部72d-2は突状部54に重なった部分以外は、辺部50aに沿って辺部50aに接した状態となる)、係止部70dの辺部70d-2が辺部50cに沿って辺部50cに接した状態となる(つまり、辺部70d-2は突状部56に重なった部分以外は、辺部50cに沿って辺部50cに接した状態となる)。辺部72d-2において、辺部50aに沿って辺部50aに接した部分は、辺部50aと重なり合う部分(重なり合い部分)と、辺部72d-2の上側から下側に向けて徐々に辺部50aに重なり合う部分(重なり移行部分)とを有し、辺部72d-2の突状部54に重なった部分と該重なり合い部分の間に該重なり移行部分が存在し、重なり移行部分では、辺部50aと重なり合う厚み方向の長さが上側から下側に向けて徐々に大きくなっている。同様に、辺部70d-2において、辺部50cに沿って辺部50cに接した部分は、辺部50cと重なり合う部分(重なり合い部分)と、辺部70d-2の上側から下側に向けて徐々に辺部50cに重なり合う部分(重なり移行部分)とを有し、辺部70d-2の突状部56に重なった部分と該重なり合い部分の間に該重なり移行部分が存在し、重なり移行部分では、辺部50cと重なり合う厚み方向の長さが上側から下側に向けて徐々に大きくなっている。なお、辺部72d-2における該重なり合い部分の長さは、辺部72d-2の長さの半分以上であり、辺部70d-2における該重なり合い部分の長さは、辺部70d-2の長さの半分以上となっている。なお、図2の例では、W1の範囲が、辺部70d-2の突状部56に重なった部分を示し、W2の範囲が、該重なり移行部分を示し、W3の範囲が、該重なり合い部分を示す。辺部72d-2における該重なり合い部分では、辺部72d-2と辺部50aとが突き合わせた状態となっていて、係止片72dと内側板部26aとの間には段差は形成されず(たとえ段差があっても極めて小さい)、辺部70d-2における該重なり合い部分では、辺部70d-2と辺部50cとが突き合わせた状態となっていて、係止片70dと内側板部26cとの間には段差は形成されない(たとえ段差があっても極めて小さい)。よって、係止片72d、70dが内側に突出して邪魔になることがない。該重なり合い部分と該重なり移行部分により(特に、該重なり合い部分により)、係止片72dが辺部50aに係止し、係止片70dが辺部50cに係止する。なお、図2、図3は、係止片70dの係止状態を示すものであるが、係止片72bの係止状態も同様であり、係止片70b、72dの係止状態も図2、図3と左右対称になる以外は同様である。

【0103】

また、係止片72dの上端領域は、突状部54に重なった状態(突状部54の外側の面(外側板部22a側とは反対側の面)に対して重なった状態)(突状部54が設けられた内側板部26aに接着された外側板部22a側の面とは反対側の面である外側の面に対して重なった状態)となり、係止部70dの上端領域は、突状部56に重なった状態(突状

部 5 6 の外側の面（外側板部 2 2 c 側とは反対側の面）に対して重なった状態）（突状部 5 6 が設けられた内側板部 2 6 c に接着された外側板部 2 2 c 側の面とは反対側の面である外側の面に対して重なった状態）となる。以上のようにして、箱 A が組み立てられる。

【0104】

箱 A の組立て状態では、重合フラップ 4 0 b、4 0 d の下面、基板部 1 0 の上面に接した状態となっている。

【0105】

次に、箱 A を解体する場合について説明する。箱 A を解体するには、側壁部 2 0 a と側壁部 2 0 c の端部付近（罫線が形成される領域）を両手でつかんで外側に押し広げることにより解体を行なう。

10

【0106】

すなわち、側壁部 2 0 d 側を解体する場合について説明すると、図 9 に示すように、側壁部 2 0 a の側壁部 2 0 d 側の端部領域（具体的には、罫線 P 1 の箇所）を左手でつかみ、側壁部 2 0 c の側壁部 2 0 d 側の端部領域（具体的には、罫線 Q 1 の箇所）を右手でつかむ。つまり、左手の親指を内側板部 2 6 a の罫線 P 1 の箇所に当てた状態で側壁部 2 0 a をつかみ、右手の親指を内側板部 2 6 c の罫線 Q 1 の箇所に当てた状態で側壁部 2 0 c をつかむ。

【0107】

その後、側壁部 2 0 a と側壁部 2 0 c を外側に倒すように押し広げる。すると、側壁部 2 0 a が罫線 P 1、P 2 を介して湾曲（折曲でもよい）しながら外側に倒れ（つまり、内側板部 2 6 a が罫線 P 1 を介して湾曲し、外側板部 2 2 a が罫線 P 2 を介して湾曲する）、側壁部 2 0 c が罫線 Q 1、Q 2 を介して湾曲（折曲でもよい）しながら外側に倒れる（内側板部 2 6 c が罫線 Q 1 を介して折曲し、外側板部 2 2 c が罫線 Q 2 を介して折曲する）。

20

【0108】

すると、内側板部 2 6 a が罫線 P 1 を介して湾曲（折曲でもよい）することにより、端部領域 2 6 a A が罫線 P 1 を介して回動し、端部領域 2 6 a A が回動することにより突状部 5 4 が内側に突出して係止片 7 2 d を内側から押すことになる。また、内側板部 2 6 a が罫線 P 1 を介して湾曲（折曲でもよい）することにより、辺部 5 0 a も途中位置 P 1 - 1 を介して外側に湾曲（折曲でもよい）して途中位置 P 1 - 1 は外側（正面側）に移動する。このように、突状部 5 4 が係止片 7 2 d を押すとともに、辺部 5 0 a も外側に折れ曲がるので、係止片 7 2 d の辺部 5 0 a への係止が解除される。なお、係止片 7 2 d の先端が円弧状（略円弧状としてもよい）に形成されているので、辺部 5 0 a との係止の解除が容易である。すなわち、係止片 7 2 d の先端が、辺部 7 2 d - 2 の延長線と辺部 7 2 d - 4 の延長線により尖って形成されている場合には、上記のような解除の操作をしても、該先端が辺部 5 0 a に係止したままとなるおそれがあるが、本実施例の場合には、そのようなおそれがない。係止片 7 0 d の辺部 5 0 c への係止と係止片 7 2 d の辺部 5 0 a への係止が解除した状態は、図 1 0 に示すようになり、特に、係止片 7 2 d の辺部 5 0 a への係止が解除した状態は、図 1 1 に示すようになる。

30

【0109】

同様に、内側板部 2 6 c が罫線 Q 1 を介して湾曲（折曲でもよい）することにより、端部領域 2 6 c A が罫線 Q 1 を介して回動し、端部領域 2 6 c A が回動することにより突状部 5 6 が内側に突出して係止片 7 0 d を内側から押すことになる。また、内側板部 2 6 c が罫線 Q 1 を介して湾曲（折曲でもよい）することにより、辺部 5 0 c も途中位置 Q 1 - 1 を介して外側に湾曲（折曲でもよい）して途中位置 Q 1 - 1 は外側（背面側）に移動する。このように、突状部 5 6 が係止片 7 0 d を押すとともに、辺部 5 0 c も外側に折れ曲がるので、係止片 7 0 d の辺部 5 0 c への係止が解除される。なお、係止片 7 0 d の先端が円弧状（略円弧状としてもよい）に形成されているので、辺部 5 0 c との係止の解除が容易である。すなわち、係止片 7 0 d の先端が、辺部 7 0 d - 2 の延長線と辺部 7 0 d - 4 の延長線により尖って形成されている場合には、上記のような解除の操作をしても、該

40

50

先端が辺部 50c に係止したままとなるおそれがあるが、本実施例の場合には、そのようなおそれがない。

【0110】

また、側壁部 20b 側の解体についても、側壁部 20d 側の場合と同様である。すなわち、側壁部 20c の側壁部 20b 側の端部領域（具体的には、罫線 Q3 の箇所）を左手でつかみ、側壁部 20a の側壁部 20b 側の端部領域（具体的には、罫線 P3 の箇所）を右手でつかむ。つまり、左手の親指を内側板部 26c の罫線 Q3 の箇所に当てた状態で側壁部 20c をつかみ、右手の親指を内側板部 26a の罫線 P3 の箇所に当てた状態で側壁部 20a をつかむ。

【0111】

その後、側壁部 20c と側壁部 20a を外側に倒すように押し広げる。すると、側壁部 20c が罫線 Q3、Q4 を介して湾曲（折曲でもよい）しながら外側に倒れ（つまり、内側板部 26c が罫線 Q3 を介して湾曲し、外側板部 22c が罫線 Q4 を介して湾曲する）、側壁部 20a が罫線 P3、P4 を介して湾曲（折曲でもよい）しながら外側に倒れる（内側板部 26a が罫線 P3 を介して湾曲し、外側板部 22a が罫線 P4 を介して湾曲する）。

【0112】

すると、内側板部 26c が罫線 Q3 を介して湾曲することにより、端部領域 26cB が罫線 Q3 を介して回動し、端部領域 26cB が回動することにより突状部 66 が内側に突出して係止片 70b を内側から押すことになる。また、内側板部 26c が罫線 Q3 を介して湾曲することにより、辺部 60c も途中位置 Q3-1 を介して外側に湾曲（折曲でもよい）して途中位置 Q3-1 は外側（背面側）に移動する。このように、突状部 66 が係止片 70b を押すとともに、辺部 60c も外側に折れ曲がるので、係止片 70b の辺部 60c への係止が解除される。なお、係止片 70b の先端が円弧状（略円弧状としてもよい）に形成されているので、辺部 60c との係止の解除が容易である。すなわち、係止片 70b の先端が、辺部 70b-2 の延長線と辺部 70b-4 の延長線により尖って形成されている場合には、上記のような解除の操作をしても、該先端が辺部 60c に係止したままとなるおそれがあるが、本実施例の場合には、そのようなおそれがない。

【0113】

同様に、内側板部 26a が罫線 P3 を介して湾曲することにより、端部領域 26aB が罫線 P3 を介して回動し、端部領域 26aB が回動することにより突状部 64 が内側に突出して係止片 72b を内側から押すことになる。また、内側板部 26a が罫線 P3 を介して折曲することにより、辺部 60a も途中位置 P3-1 を介して外側に湾曲（折曲でもよい）して途中位置 P3-1 は外側（正面側）に移動する。このように、突状部 64 が係止片 72b を押すとともに、辺部 60a も外側に折れ曲がるので、係止片 72b の辺部 60a への係止が解除される。なお、係止片 72b の先端が円弧状（略円弧状としてもよい）に形成されているので、辺部 60a との係止の解除が容易である。すなわち、係止片 72b の先端が、辺部 72b-2 の延長線と辺部 72b-4 の延長線により尖って形成されている場合には、上記のような解除の操作をしても、該先端が辺部 60a に係止したままとなるおそれがあるが、本実施例の場合には、そのようなおそれがない。

【0114】

4つの係止片 70b、70d、72b、72d の係止を解除した状態は、図 12 に示すようになる。

【0115】

以上のように、本実施例の箱 A においては、側壁部 20a と側壁部 20c の端部付近（罫線が形成される領域）を両手でつかんで外側に押し広げるという簡単な操作により解体を行なうことができるので、解体が容易である。

【0116】

特に、箱 A の組立て状態において、係止片 72d、72b、70d、70b が突状部 54、64、56、66 に重なっていて、罫線 P1、P3、Q1、Q3 を介して内側板部を

10

20

30

40

50

湾曲することにより、突状部 5 4、6 4、5 6、6 6 が係止片 7 2 d、7 2 b、7 0 d、7 0 b を押すので、係止片の解除が容易となり、また、罫線 P 1、P 3、Q 1、Q 3 が、係止片 7 2 d、7 2 b、7 0 d、7 0 b の傾斜した辺部 7 2 d-2、7 2 b-2、7 0 d-2、7 2 d-2 に接するので、係止片の解除が容易である。

【0117】

特に、係止片 7 2 d、7 2 b、7 0 d、7 0 b の上端領域が突状部 5 4、6 4、5 6、6 6 に重なることから、係止片の辺部 7 2 d-2、7 2 b-2、7 0 d-2、7 0 b-2 の上側領域を解除しやすくでき、また、罫線 P 1、P 3、Q 1、Q 3 が、辺部 7 2 d-2、7 2 b-2、7 0 d-2、7 0 b-2 の下側領域に接するので、係止片の辺部 7 2 d-2、7 2 b-2、7 0 d-2、7 2 b-2 の下側領域を解除しやすくできるので、係止片の解除を容易に行なうことができる。

10

【0118】

また、係止片 7 2 d、7 2 b、7 0 d、7 0 b の先端が円弧状（略円弧状としてもよい）に形成されているので、辺部 5 0 a、6 0 a、5 0 c、6 0 c との係止の解除が容易である。

【0119】

なお、罫線 P 1～P 4、Q 1～Q 4 は、ブランクの内側の面（箱 A の組立て状態において内側となる面）から押圧した押罫により形成されているとしたが、ブランクの外側の面から押圧した押罫により形成してもよい。

【0120】

また、上記の説明では、延設フラップ 2 8 a、2 8 c は隣接する外側板部 2 2 d と分離した構成であり、延設フラップ 3 0 a、3 0 c は隣接する外側板部 2 2 b と分離した構成であるとしたが、図 1 3 に示す箱 A のように、外側板部 2 2 d、2 2 b に折れ線を介して連設されたフラップで、二つ折りの状態で挟持させるものであってもよい。

20

【0121】

すなわち、図 1 3 におけるフラップ（延設フラップ）2 8 a は、外側板部 2 2 a 及び外側板部 2 2 d と折れ線を介して連設され、それらの折れ線に対して 4 5 度の角度に形成された折れ線 2 8 a-L を介して二つ折りになり、フラップ（延設フラップ）2 8 c は、外側板部 2 2 c 及び外側板部 2 2 d と折れ線を介して連設され、それらの折れ線に対して 4 5 度の角度に形成された折れ線 2 8 c-L を介して二つ折りになり、箱 A の組立て状態において、延設フラップ 2 8 a、2 8 c は、二つ折りの状態で外側板部 2 2 d と内側板部 2 6 d により挟まれた状態となる。

30

【0122】

同様に、図 1 3 におけるフラップ（延設フラップ）3 0 a は、外側板部 2 2 a 及び外側板部 2 2 b と折れ線を介して連設され、それらの折れ線に対して 4 5 度の角度に形成された折れ線 3 0 a-L を介して二つ折りになり、フラップ（延設フラップ）3 0 c は、外側板部 2 2 c 及び外側板部 2 2 b と折れ線を介して連設され、それらの折れ線に対して 4 5 度の角度に形成された折れ線 3 0 c-L を介して二つ折りになり、箱 A の組立て状態において、延設フラップ 3 0 a、3 0 c は、二つ折りの状態で外側板部 2 2 b と内側板部 2 6 b により挟まれた状態となる。

40

【0123】

なお、図 1 3 に示す構成においては、延設フラップ 2 8 a、2 8 c、3 0 a、3 0 c 以外は、図 4～図 7 に示す構成と同様の構成である。また、図 1 3 に示す箱 A を組み立てた状態は、図 1、図 2 に示すようになり、図 3 についても、延設フラップ 2 8 c 以外は同様である。

【0124】

延設フラップ 2 8 a、2 8 c、3 0 a、3 0 c を図 1 3 に示す構成とした場合においても、係止片 7 2 d、7 2 b、7 0 d、7 0 b の解除の操作は同様であり、その作用・効果も図 4～図 7 に示す構成の場合と同様である。

【0125】

50

また、角度 $\alpha 2$ 、 $\alpha 3$ 、 $\alpha 5$ 、 $\alpha 6$ 、 $\alpha 12$ 、 $\alpha 13$ 、 $\alpha 15$ 、 $\alpha 16$ は45度（略45度としてもよい）に形成されているとしたが、罫線P1～P4、Q1～Q4が下端から内側斜め上方に向けて形成される角度（つまり、鋭角）であれば他の角度でもよい。ただし、角度 $\alpha 2$ 、 $\alpha 3$ 、 $\alpha 5$ 、 $\alpha 6$ 、 $\alpha 12$ 、 $\alpha 13$ 、 $\alpha 15$ 、 $\alpha 16$ は45度（略45度としてもよい）とすると、内側板部26a、26c、外側板部22a、22cを大きく折曲させることができるので、45度とするのが好ましい。

【0126】

また、角度 $\alpha 1$ 、 $\alpha 4$ 、 $\alpha 11$ 、 $\alpha 14$ は135度に形成されているとしたが、鈍角であれば他の角度でもよい。なお、角度 $\alpha 1$ 、 $\alpha 4$ 、 $\alpha 11$ 、 $\alpha 14$ が135度以外の鈍角である場合には、係止片70b、72b、70d、72dの角度 $\alpha 21$ 、 $\alpha 31$ 、 $\alpha 41$ 、 $\alpha 51$ は、角度 $\alpha 21 = \alpha 14 - 90$ 度、角度 $\alpha 31 = \alpha 4 - 90$ 度、角度 $\alpha 41 = \alpha 11 - 90$ 度、角度 $\alpha 51 = \alpha 1 - 90$ 度に従って決定される。

【0127】

また、角度 $\alpha 1$ 、 $\alpha 4$ 、 $\alpha 11$ 、 $\alpha 14$ が135度以外の鈍角である場合に、罫線P1、P3、Q1、Q3を辺部50a、60a、50c、60cと直角にする場合には、角度 $\alpha 2$ 、 $\alpha 5$ 、 $\alpha 12$ 、 $\alpha 15$ は、角度 $\alpha 2 = \alpha 1 - 90$ 度、角度 $\alpha 5 = \alpha 4 - 90$ 度、角度 $\alpha 12 = \alpha 11 - 90$ 度、角度 $\alpha 15 = \alpha 14 - 90$ 度となる。

【0128】

なお、切欠部K1a、K2a、K1c、K2cの辺部50a、60a、50c、60cの角度 $\alpha 1$ 、 $\alpha 4$ 、 $\alpha 11$ 、 $\alpha 14$ を135度以外の鈍角とした場合には、135度よりも小さい鈍角とすると、辺部50a、60a、50c、60cの長さが短くなってしまい、係止片との係止力が弱くなり、また、135度よりも大きい鈍角とすると、突状部54、64、56、66の頂点から辺部50a、60a、50c、60cの延長線までの垂線の長さが短くなって、突状部54、64、56、66が係止片を押し出す長さが短くなるので、角度 $\alpha 1$ 、 $\alpha 4$ 、 $\alpha 11$ 、 $\alpha 14$ は135度とするのが好ましい。

【0129】

例えば、突状部54を例にとると、角度 $\alpha 1$ の角度を135度よりも大きい鈍角とすると、突状部54の頂点（辺部52aと辺部26a-3の角部の頂点）から辺部50aの延長線までの垂線が短くなり、内側板部26aが罫線P1を介して折曲された際に、突状部54が係止片72dを押し出す長さが短くなる。

【0130】

なお、上記の説明において、辺部52a、62aは、辺部26a-1、26a-2と平行に形成されているとしたが、辺部50a、60aの延長線から突出した突状部を形成することができれば、辺部52a、62aは辺部26a-1、26a-2と平行でなくともよく、例えば、内側板部26aの側辺（辺部26a-3、26a-4）に向けて斜め下方に形成してもよい。同様に、辺部52c、62cは、辺部26c-1、26c-2と平行に形成されているとしたが、辺部50c、60cの延長線から突出した突状部を形成することができれば、辺部52c、62cは辺部26c-1、26c-2と平行でなくともよく、例えば、内側板部26cの側辺（辺部26c-3、26c-4）に向けて斜め下方に形成してもよい。

【0131】

また、辺部50a、60a、50c、60cと辺部52a、62a、52c、62cは直線状であるとしたが、曲線状であってもよく、例えば、円弧状（略円弧状としてもよい）や楕円弧状（略楕円弧状）であってもよい。

【0132】

なお、上記において、「延設フラップ」の語は、「挿入フラップ」、「差込みフラップ」、「挟設フラップ」、「挟持フラップ」、「縦フラップ」のいずれかとしてもよい。

【符号の説明】

【0133】

A 箱

10

20

30

40

50

10 基板部

20a、20b、20c、20d 側壁部

22a、22b、22c、22d 外側板部

24a、24b、24c、24d 縁板部

26a、26b、26c、26d 内側板部

28a、30a、28c、30c 延設フラップ

40b、40d 重合フラップ

22aA、22aB、22cA、22cB、26aA、26aB、26cA、26cB
端部領域

50a、60a、50c、60c、52a、62a、52c、62c、70b-1、70b-2、70b-3、70b-4、72b-1、72b-2、72b-3、72b-4、70d-1、70d-2、70d-3、70d-4、72d-1、72d-2、72d-3、72d-4 辺部

54、64、56、66 突状部

70b、70d、72b、72d 係止片

A1 正面側構成部

A2 右側面側構成部

A3 背面側構成部

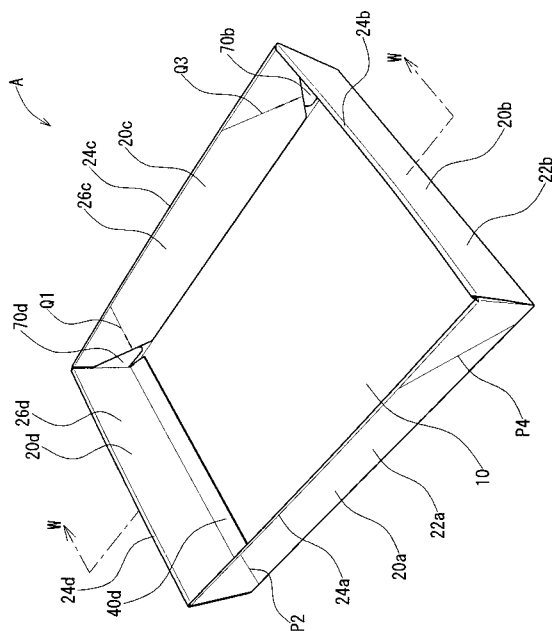
A4 左側面側構成部

K1a、K2a、K1c、K2c 切欠部

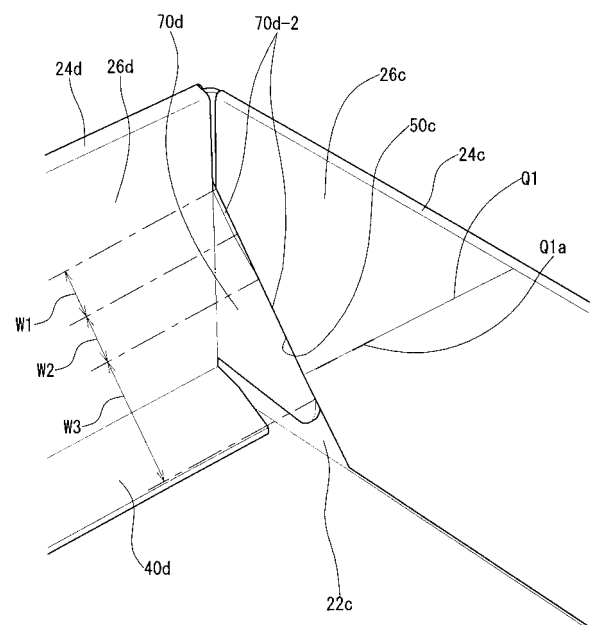
P1、P2、P3、P4、Q1、Q2、Q3、Q4 罫線

P1-1、P1-2、P2-1、P2-2、P3-1、P3-2、P4-1、P4-2、Q1-1、Q1-2、Q2-1、Q2-2、Q3-1、Q3-2、Q4-1、Q4-2
途中位置

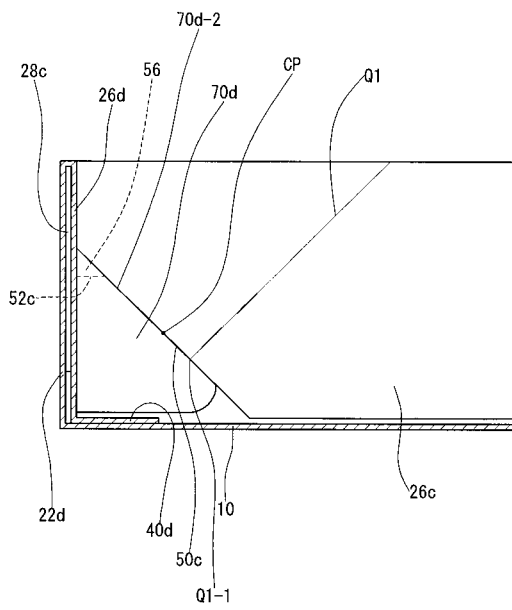
【図1】



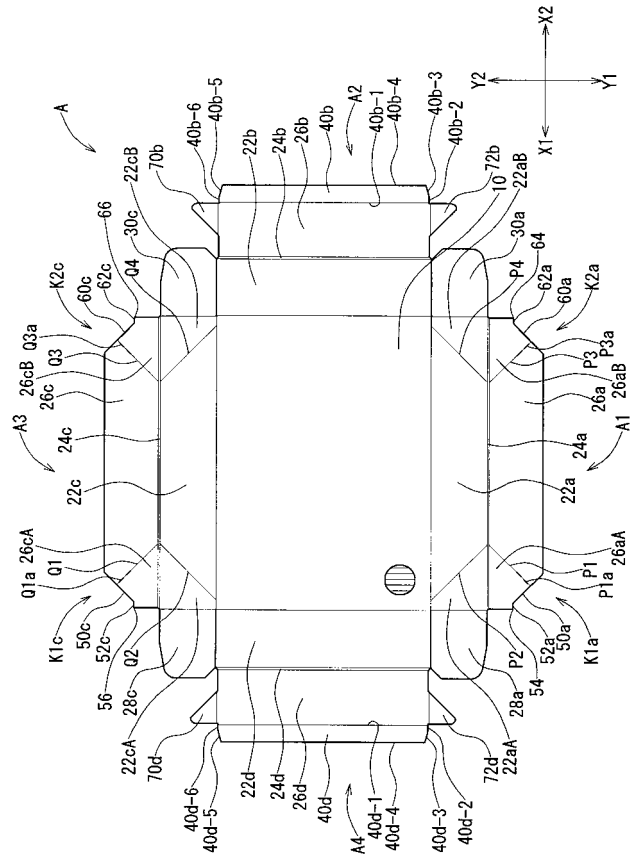
【図2】



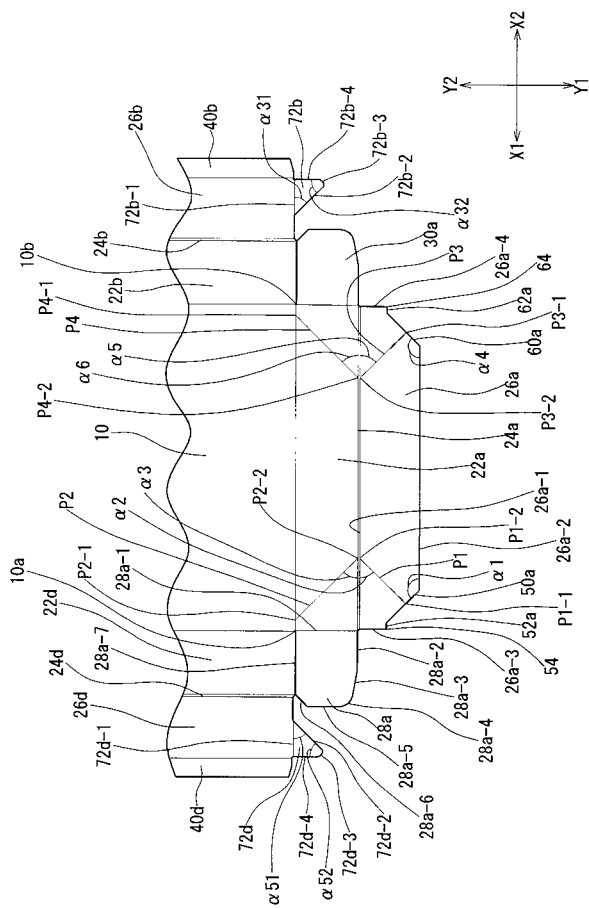
【 図 3 】



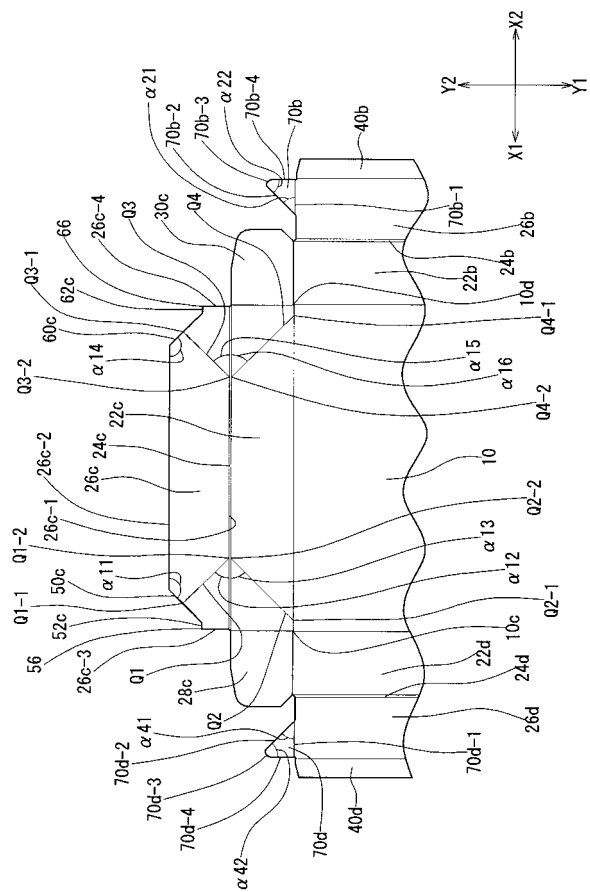
【 図 4 】



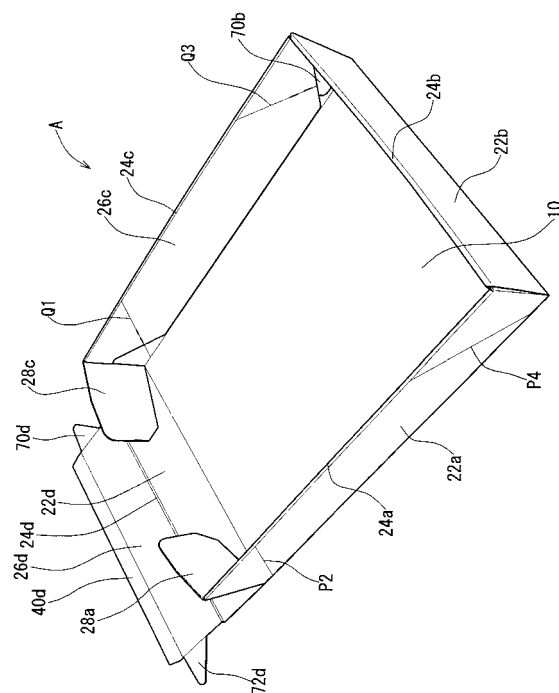
【図 5】



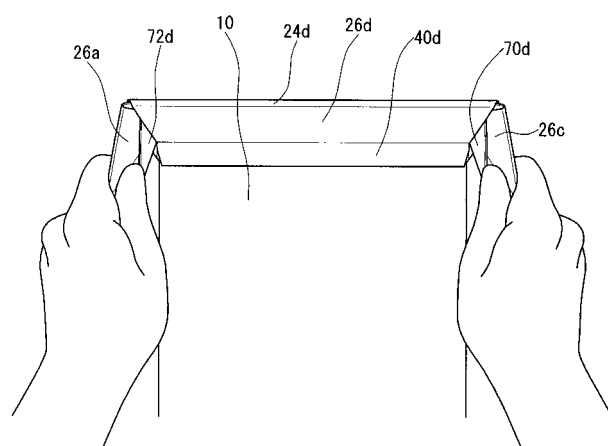
【圖 6】



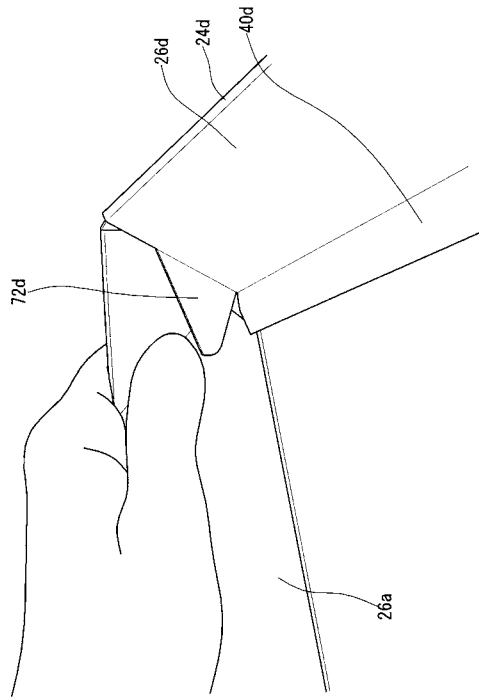
【图 8】



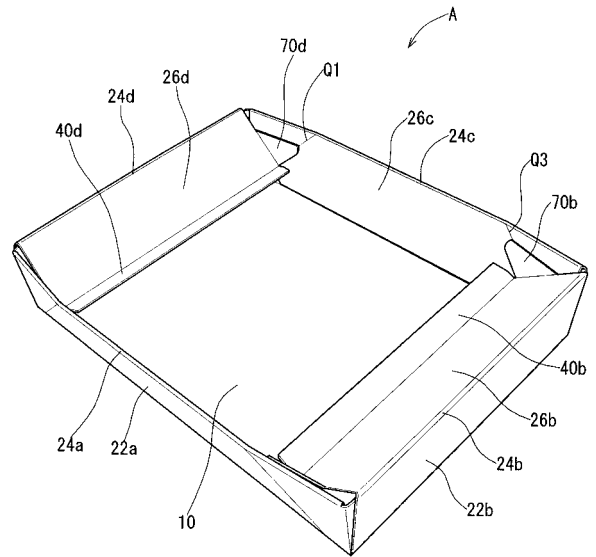
【図 10】



【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】

